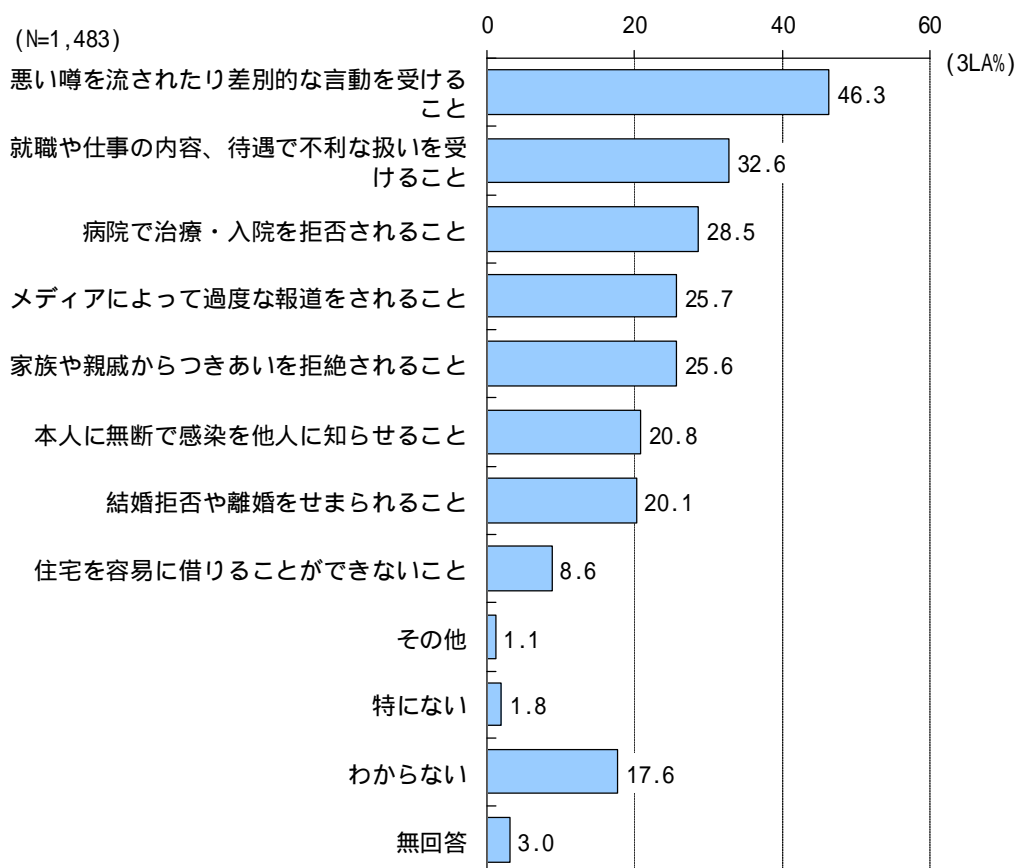


8 さまざまな人権問題について

(1) 特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うこと

問 31 エイズ患者・HIV感染者、ハンセン病回復者などの人権について尊重されていないのは、特にどのようなことですか。(あてはまる番号3つまでに)

【図 8-1 特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うこと】



特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うことについては、「悪い噂を流されたり差別的な言動を受けること」(46.3%)が最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けること」(32.6%)、「病院で治療・入院を拒否されること」(28.5%)と続いている。(図 8-1)

【表 8-1-1 年代別 特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うこと】

(上段：回答者数 / 下段：回答比率) (3LA%)

	調査数	悪い噂を流されたり差別的な言動を受けること	就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けること	病院で治療・入院を拒否されること	メディアによって過度な報道をされること	家族や親戚からつきあいを拒絶されること	本人に無断で感染を他人に知らせること	結婚拒否や離婚をせまられること	住宅を容易に借りることができないこと	その他	特にない	わからない	無回答
20歳未満	50 100.0	26 52.0	11 22.0	17 34.0	10 20.0	14 28.0	16 32.0	8 16.0	2 4.0	-	-	11 22.0	-
20歳代	130 100.0	87 66.9	48 36.9	34 26.2	39 30.0	31 23.8	30 23.1	29 22.3	11 8.5	-	1 0.8	13 10.0	-
30歳代	242 100.0	142 58.7	78 32.2	69 28.5	69 28.5	63 26.0	77 31.8	55 22.7	21 8.7	2 0.8	4 1.7	23 9.5	2 0.8
40歳代	229 100.0	125 54.6	76 33.2	59 25.8	49 21.4	71 31.0	50 21.8	52 22.7	18 7.9	2 0.9	4 1.7	37 16.2	3 1.3
50歳代	228 100.0	95 41.7	94 41.2	74 32.5	69 30.3	61 26.8	48 21.1	40 17.5	22 9.6	4 1.8	3 1.3	37 16.2	3 1.3
60歳代	336 100.0	133 39.6	111 33.0	92 27.4	99 29.5	81 24.1	51 15.2	67 19.9	26 7.7	3 0.9	7 2.1	75 22.3	9 2.7
70歳以上	237 100.0	67 28.3	59 24.9	71 30.0	44 18.6	54 22.8	33 13.9	42 17.7	27 11.4	5 2.1	5 2.1	59 24.9	19 8.0

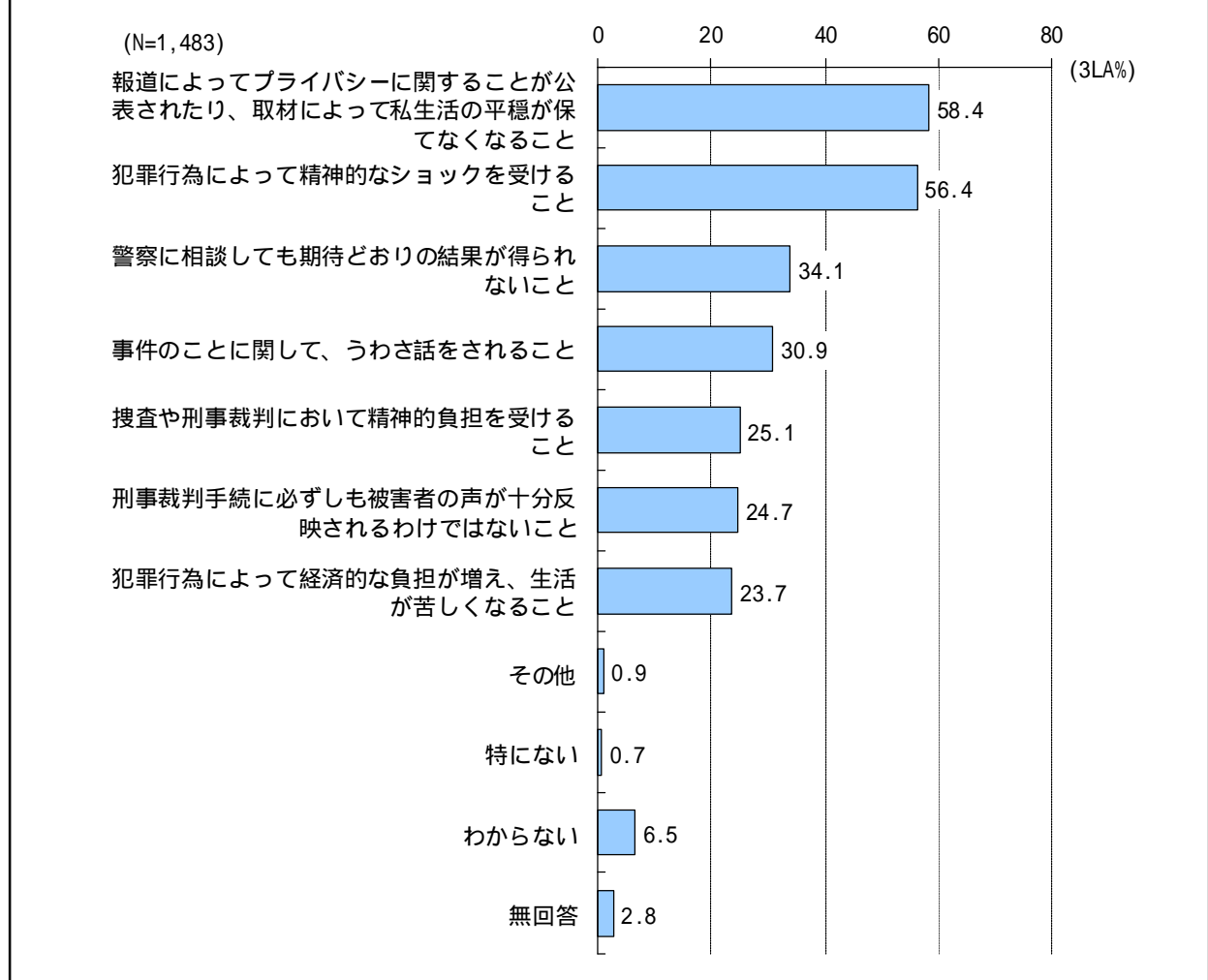
特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うことを年代別でみると、各年代で「悪い噂を流されたり差別的な言動を受けること」の割合が高く、特に20歳代(66.9%)が他の年代と比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて割合が低下している。

また、「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けること」では50歳代(41.2%)が、「本人に無断で感染を他人に知らせること」では20歳未満(32.0%)と30歳代(31.8%)が、他の年代と比べて割合が高くなっている。(表8-1-1)

(2) 犯罪被害者の人権問題

問 32 あなたは、犯罪被害者等に関し、現在、特にどのような人権問題が起きていると思いますか。(あてはまる番号3つまでに)

【図 8 2 犯罪被害者の人権問題】



犯罪被害者の人権問題について、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなる」と(58.4%)と「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」(56.4%)が5割以上と高くなっている。これらに次いで「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」(34.1%)と「事件のことにに関して、うわさ話されること」(30.9%)では3割以上となっている。(図 8 2)

【表 8 2 -1 年代別 犯罪被害者の人権問題】

(上段：回答者数 / 下段：回答比率) (3LA%)

	調査数	私生活の平穩が保てなくなる ことが公表されたり、取材 によって	報道によってプライバシーに 関する	犯罪行為によって精神的な ショック	警察に相談しても期待ど おりの結果	事件のことにに関して、 うわさ話をさ	捜査や刑事裁判において 精神的負担	刑事裁判手続に必ずしも 被害者の声	え、犯罪行為によって経済 的な負担が増	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
20歳未満	50 100.0	30 60.0	31 62.0	19 38.0	21 42.0	8 16.0	10 20.0	6 12.0	1 2.0	-	-	4 8.0	-
20歳代	130 100.0	78 60.0	80 61.5	45 34.6	48 36.9	38 29.2	28 21.5	26 20.0	-	1 0.8	7 5.4	1 0.8	
30歳代	242 100.0	144 59.5	138 57.0	100 41.3	81 33.5	68 28.1	59 24.4	64 26.4	4 1.7	3 1.2	8 3.3	2 0.8	
40歳代	229 100.0	147 64.2	144 62.9	79 34.5	84 36.7	62 27.1	66 28.8	54 23.6	4 1.7	1 0.4	8 3.5	2 0.9	
50歳代	228 100.0	144 63.2	147 64.5	73 32.0	62 27.2	68 29.8	65 28.5	47 20.6	4 1.8	-	10 4.4	2 0.9	
60歳代	336 100.0	200 59.5	182 54.2	115 34.2	94 28.0	72 21.4	79 23.5	87 25.9	-	-	30 8.9	8 2.4	
70歳以上	237 100.0	114 48.1	99 41.8	70 29.5	59 24.9	52 21.9	58 24.5	63 26.6	1 0.4	5 2.1	26 11.0	18 7.6	

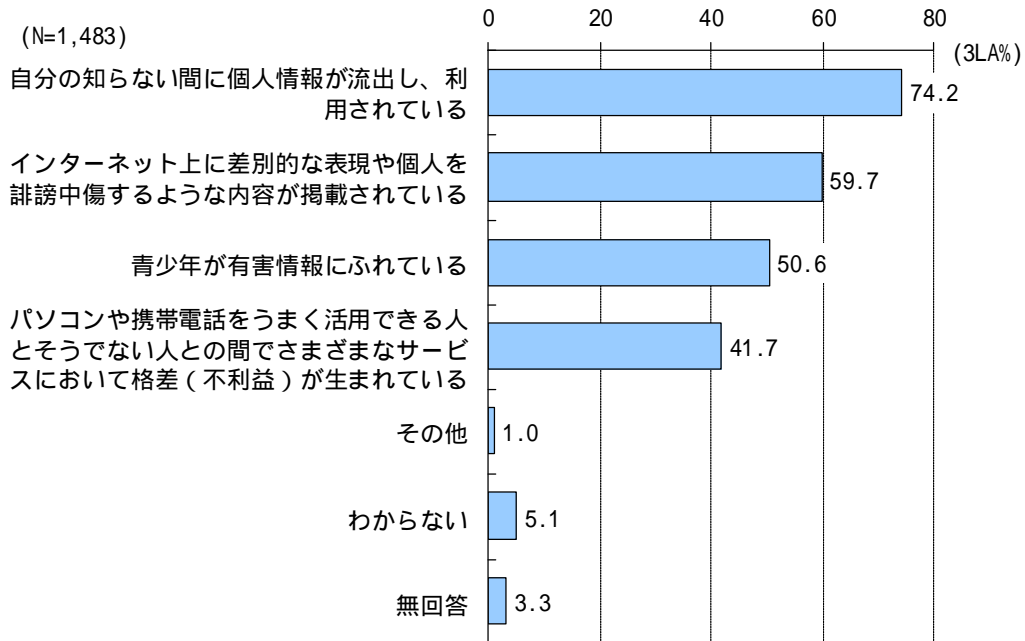
犯罪被害者の人権問題を年代別で見ると、60歳代以下の年代で「報道によってプライバシーにすることが公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなる」と「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」がともに過半数を占めて高くなっており、70歳以上では両項目とも4割以上となっている。

また、「事件のことにに関して、うわさ話されること」では、40歳代以下の年代が他の年代に比べ割合が高くなっている。(表 8 2 -1)

(3) 高度情報化に伴う人権課題

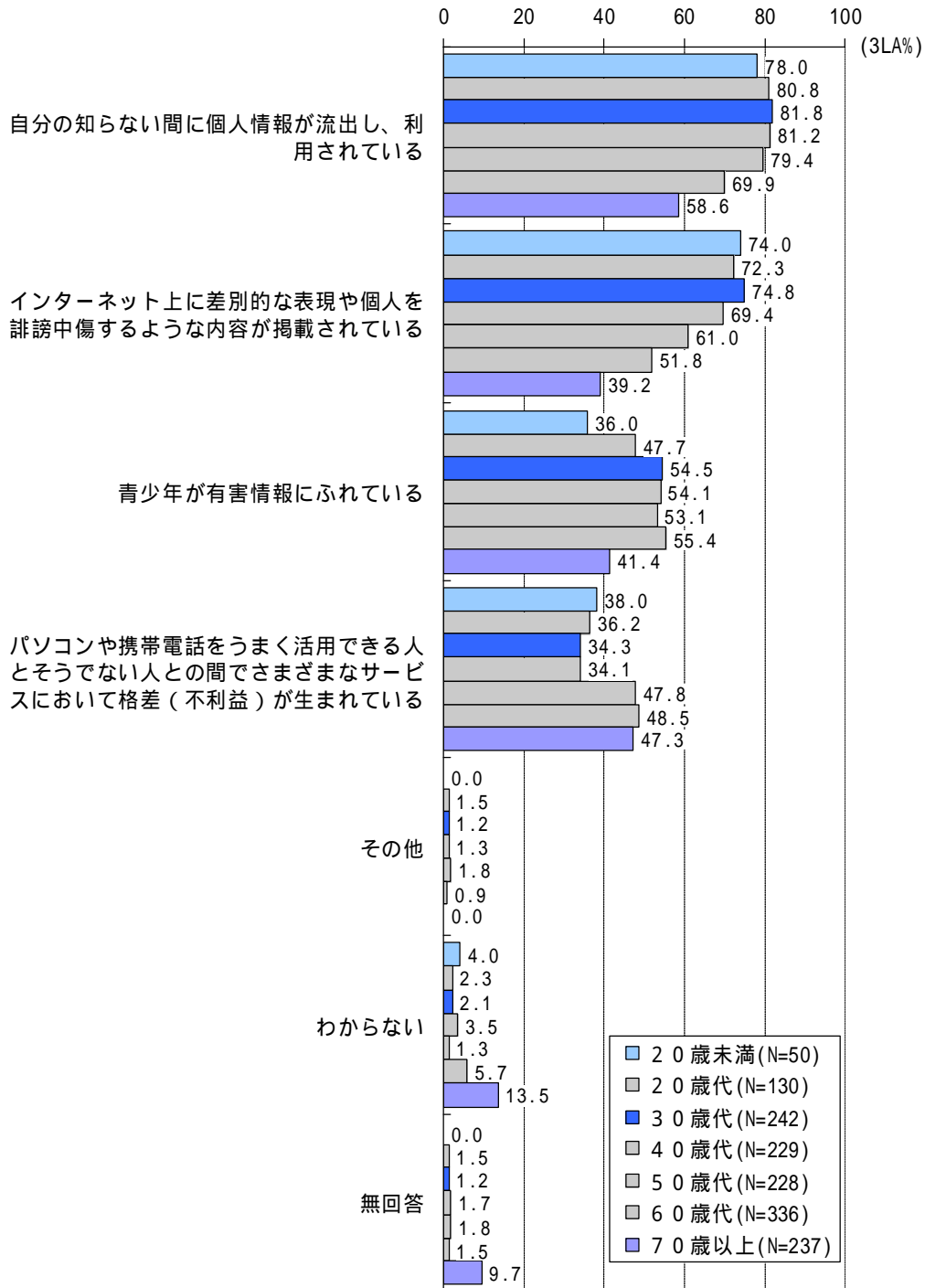
問 33 高度情報化に伴い、あなたはどのような人権課題が生まれていると思いますか。
(あてはまる番号3つまでに)

【図 8-3 高度情報化に伴う人権課題】



高度情報化に伴う人権課題について、「自分の知らない間に個人情報が流出し、利用されている」(74.2%)が最も高く、次いで「インターネット上に差別的な表現や個人を誹謗中傷するような内容が掲載されている」(59.7%)、「青少年が有害情報にふれている」(50.6%)、「パソコンや携帯電話をうまく活用できる人とそうでない人との間でさまざまなサービスにおいて格差(不利益)が生まれている」(41.7%)となっている。(図 8-3)

【図 8-3-1 年代別 高度情報化に伴う人権課題】



高度情報化に伴う人権課題を年代別でみると、各年代で「自分の知らない間に個人情報が流出し、利用されている」が過半数を占めており、50歳代以下の年代では8割前後となっている。

「インターネット上に差別的な表現や個人を誹謗中傷するような内容が掲載されている」では、40歳代以下の年代で7割前後を占め、年代が上がるにつれて割合が低下している。

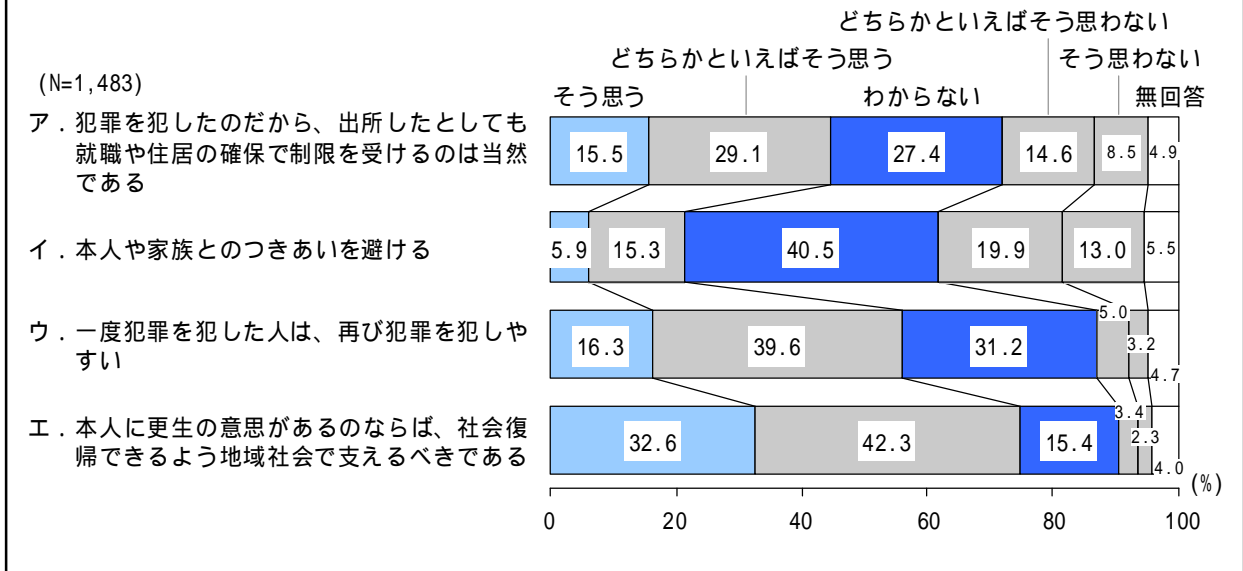
「青少年が有害情報にふれている」では、30歳代～60歳代で5割台を占めている。

「パソコンや携帯電話をうまく活用できる人とそうでない人との間でさまざまなサービスにおいて格差(不利益)が生まれている」では、50歳代以上の年代が5割近くを占め、高齢者世代ほど情報格差問題への関心が高い。(図8-3-1)

(4) 刑を終えて出所した人の人権問題

問 34 刑を終えて出所した人について、つぎのような意見がありますが、あなたはこれら
のことについてどう思いますか。(ア～エのそれぞれについてあてはまる番号 1 つに)

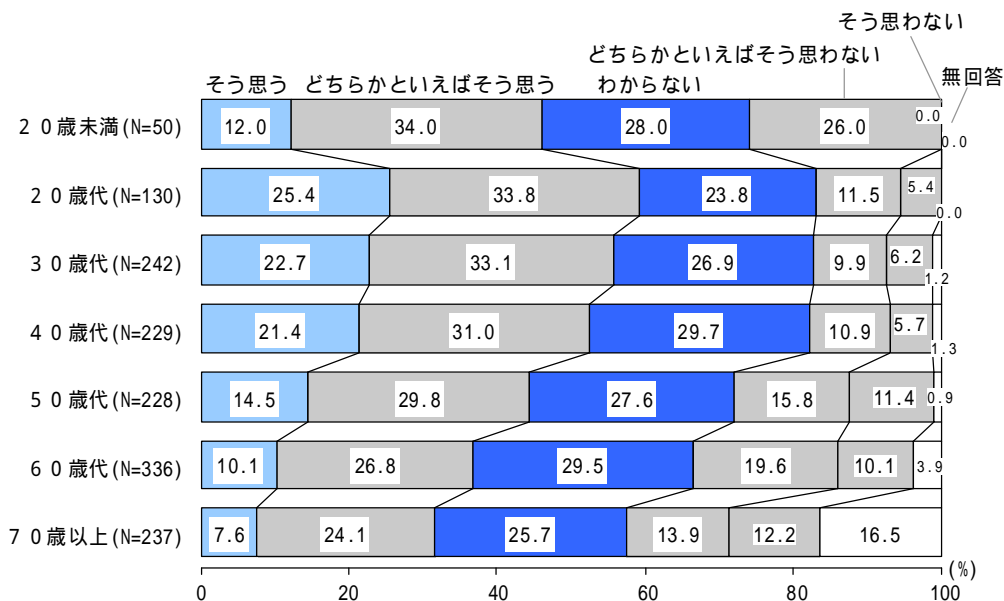
【図 8 4 刑を終えて出所した人の人権問題】



刑を終えて出所した人の人権問題について、「ウ．一度犯罪を犯した人は、再び犯罪を犯しやすい」という問いに、肯定的な回答は 55.9%と過半数を超える。実際、わが国における一般刑法犯及び検挙人員に占める再犯者の比率は約 41% <2008 年度>、一般刑法犯及び道交法違反を除く特別法犯による起訴人員に占める有前科者の比率は 48%と高い。法務省総合研究所の最近の調査でも 2000 年の出所者 1021 名の出所後 10 年目の調査で、約 3 割が何らかの犯罪を繰り返していた、と報告されている。55.9%という数字はこうした事実を反映しているといえよう。他方で、「エ．本人に更生の意思があるのならば、社会復帰できるよう地域社会で支えるべきである」も、74.9%が肯定的な回答をしており、再犯防止への期待も大きいといえよう。「ア．犯罪を犯したのだから、出所したとしても就職や住居の確保で制限を受けるのは当然である」(44.6%)となっている。

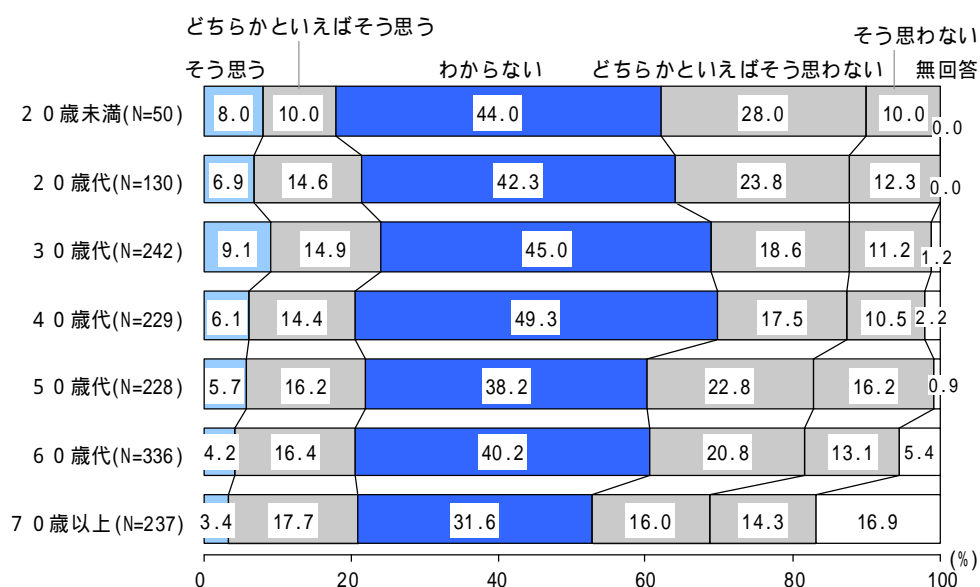
「イ．本人や家族とのつきあいを避ける」では、「わからない」(40.5%)が最も高く、“否定派”(32.9%)が“肯定派”(21.2%)に比べ割合が高くなっている。(図 8 4)

【図 8 4 1 年代別 ア . 犯罪を犯したのだから、出所したとしても就職や住居の確保で制限を受けるのは当然である】



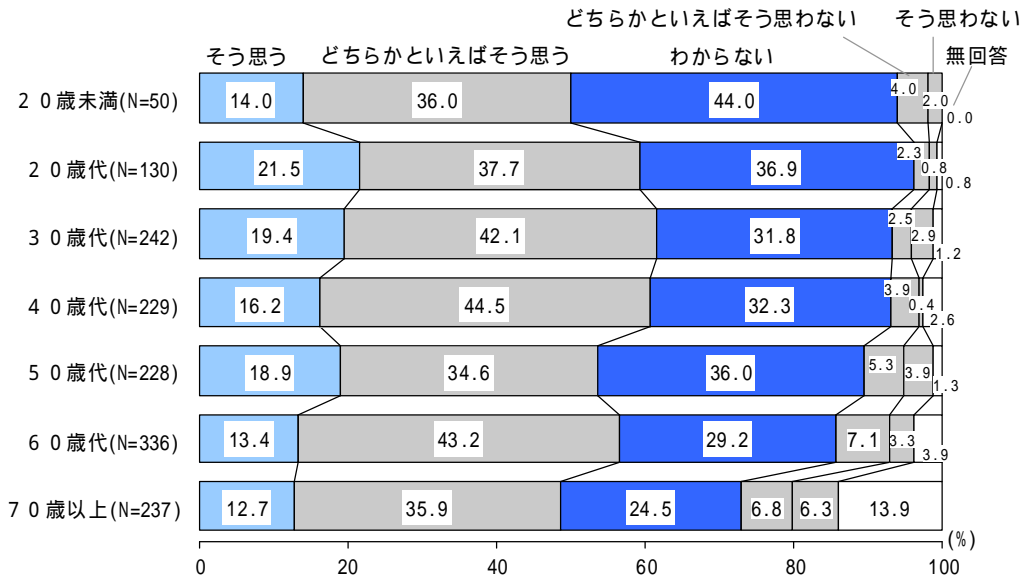
「ア . 犯罪を犯したのだから、出所したとしても就職や住居の確保で制限を受けるのは当然である」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて割合が低下している。犯罪を自己責任と捉えるか否かといった犯罪観、さらには犯罪者への処遇のあり方についての考え方の違いが世代によって異なることが示されていると言えよう。(図 8 4 1)

【図 8 4 2 年代別 イ . 本人や家族とのつきあいを避ける】



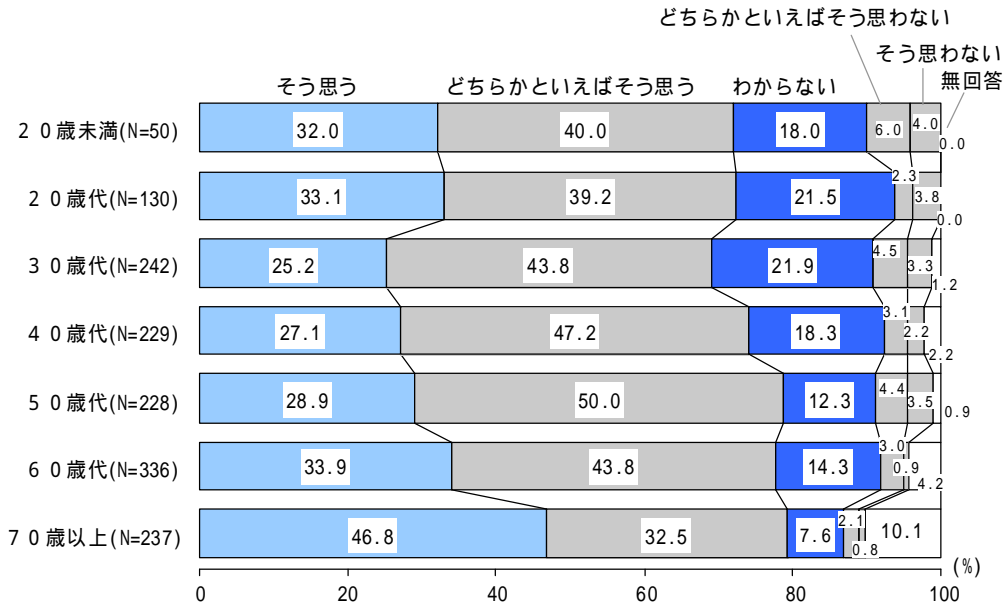
「イ . 本人や家族とのつきあいを避ける」を年代別でみると、各年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、「わからない」の割合も高くなっている。(図 8 4 2)

【図 8 4 3 年代別 ウ . 一度犯罪を犯した人は、再び犯罪を犯しやすい】



「ウ . 一度犯罪を犯した人は、再び犯罪を犯しやすい」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が5割前後を占めており、特に20歳代～40歳代で6割前後と高くなっている。(図843)

【図 8 4 4 年代別 エ . 本人に更生の意志があるのならば、社会復帰できるよう地域社会で支えるべきである】

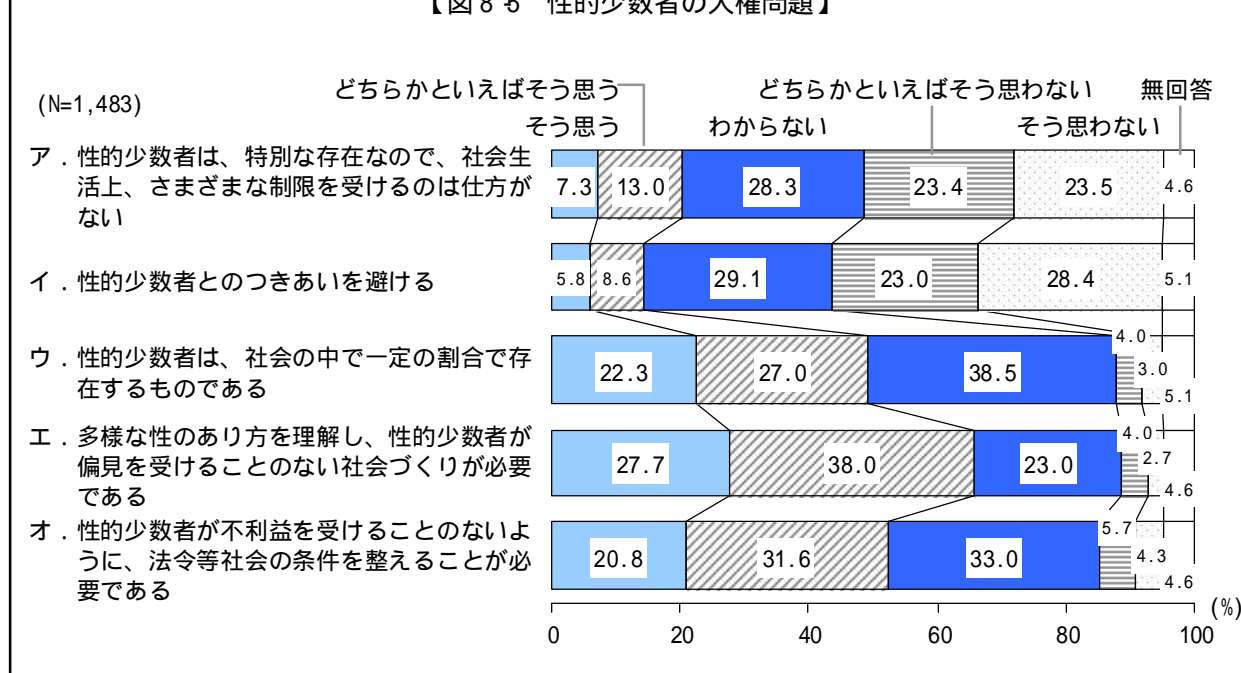


「エ . 本人に更生の意志があるのならば、社会復帰できるよう地域社会で支えるべきである」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が7割前後を占めており、50歳代以上の年代では8割近くと高くなっている。(図844)

(5) 性的少数者の人権問題

問 35 性的少数者(性同一性障害、同性愛、先天的に身体上の性別が不明瞭等)に対して、
つぎのような意見がありますが、あなたはこれらについてどう思いますか。
(ア～オのそれぞれについてあてはまる番号1つに)

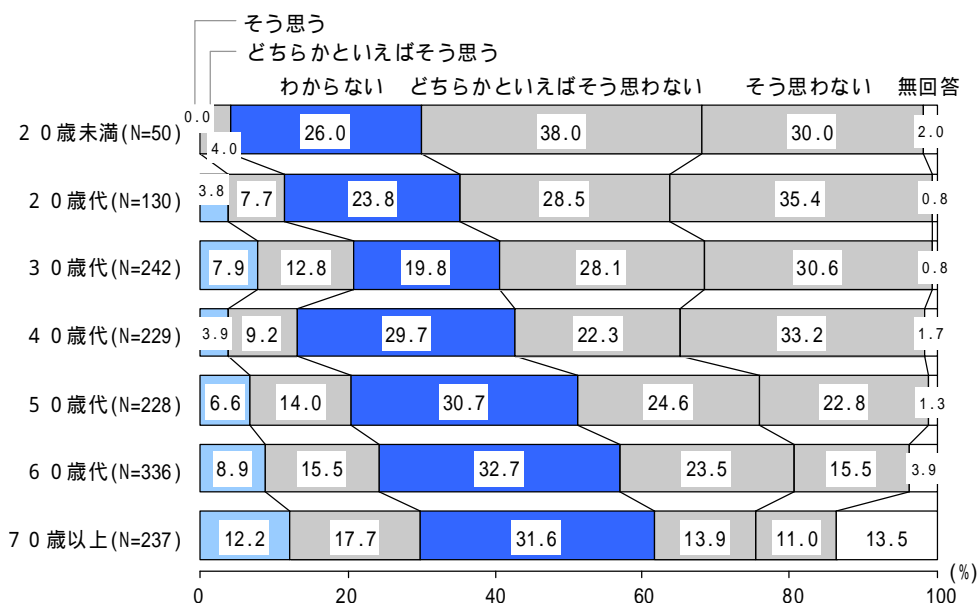
【図 8 5 性的少数者の人権問題】



性的少数者の人権問題について、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高い項目は、「イ．性的少数者とのつきあいを避ける」(51.4%)、「ア．性的少数者は、特別な存在なので、社会生活上、さまざまな制限を受けるのは仕方がない」(46.9%)となっている。

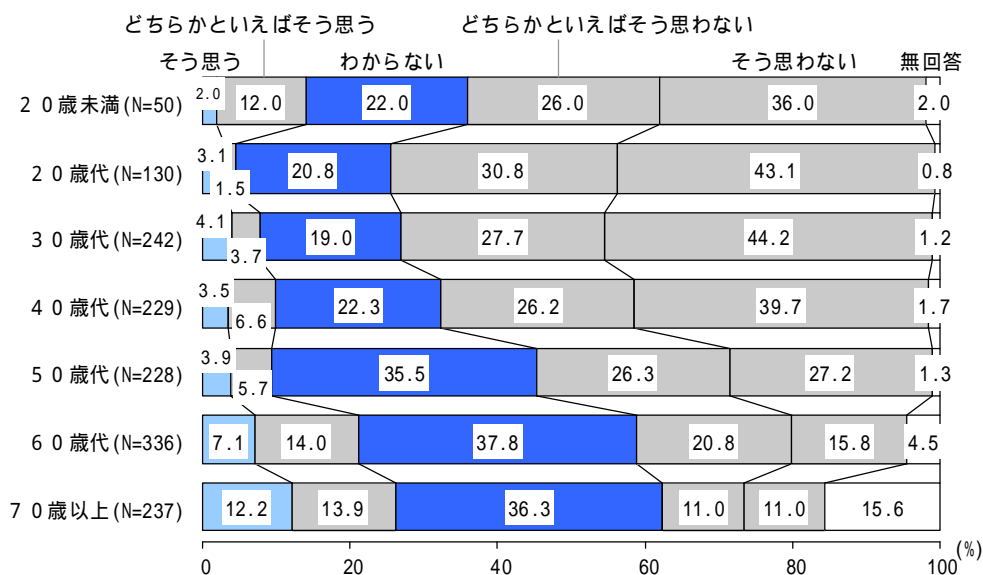
一方、“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高い項目は、「エ．多様な性のあり方を理解し、性的少数者が偏見を受けることのない社会づくりが必要である」(65.7%)、「オ．性的少数者が不利益を受けることのないように、法令等社会の条件を整えることが必要である」(52.4%)、「ウ．性的少数者は、社会の中で一定の割合で存在するものである」(49.3%)となっている。上記エ・オ・ウの結果をみると、性的少数者への社会的認知は意識の上では進んでいるといえるが、イ・アの結果からは、性的少数者とどのようにつきあったらいいのか、具体的な態度の上では戸惑いが示されているといえよう。(図 8 5)

【図 8-5-1 年代別 ア．性的少数者は、特別な存在なので、社会生活上、さまざまな制限を受けるのは仕方がない】



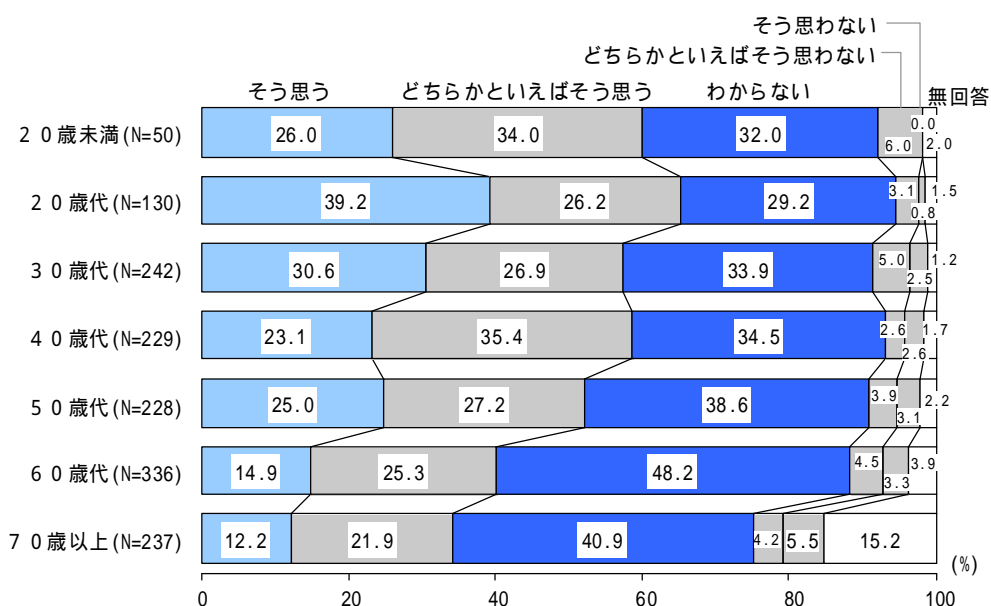
「ア．性的少数者は、特別な存在なので、社会生活上、さまざまな制限を受けるのは仕方がない」を年代別でみると、60歳代以下の年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて割合が低下し、70歳以上では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。（図 8-5-1）

【図 8-5-2 年代別 イ．性的少数者とのつきあいを避ける】



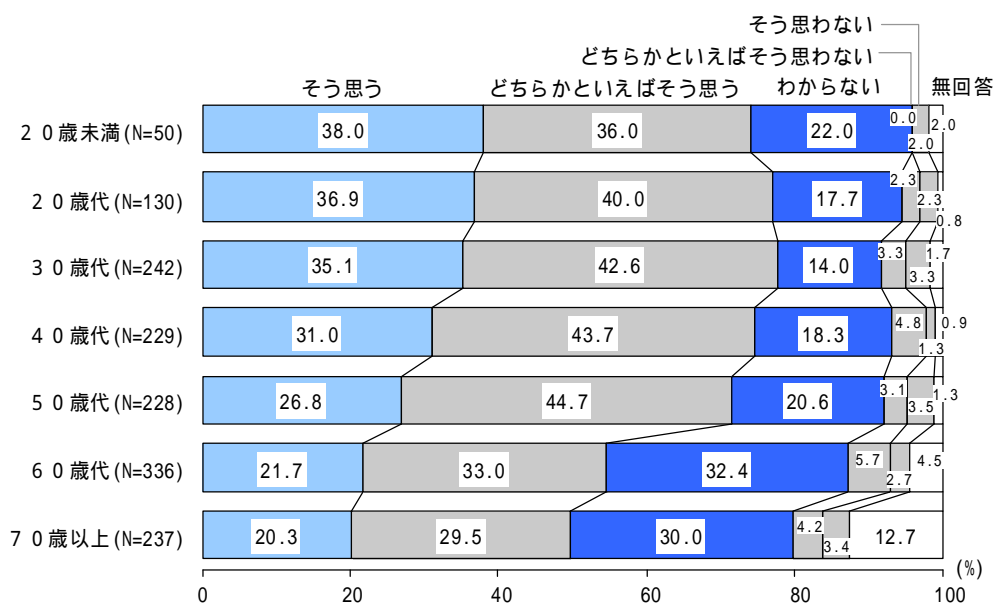
「イ．性的少数者とのつきあいを避ける」を年代別でみると、60歳代以下の年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて割合が低下し、70歳以上では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。（図 8-5-2）

【図 8 5 3 年代別 ウ．性的少数者は、社会の中で一定の割合で存在するものである】



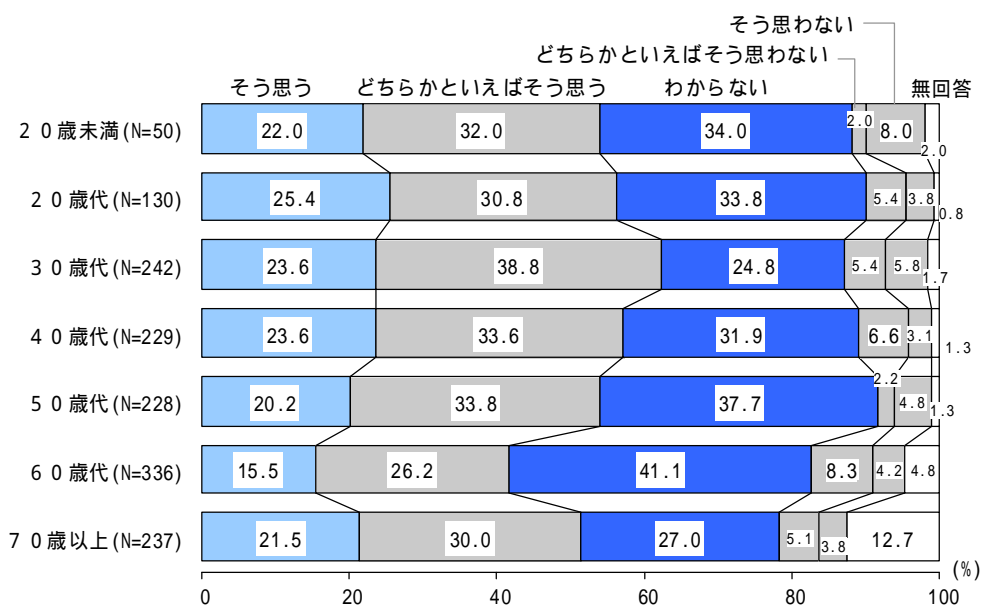
「ウ．性的少数者は、社会の中で一定の割合で存在するものである」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、50歳代以下の年代では過半数を占めているが、年代が上がるにつれて割合が低下し、70歳以上では34.1%となっている。(図 8 5 3)

【図 8 5 4 年代別 エ．多様な性のあり方を理解し、性的少数者が偏見を受けることのない社会づくりが必要である】



「エ．多様な性のあり方を理解し、性的少数者が偏見を受けることのない社会づくりが必要である」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、50歳代以下の年代で7割台を占めるが、年代が上がるにつれて割合が低下している。(図 8 5 4)

【図8-5-5 年代別 オ．性的少数者が不利益を受けることのないように、法令等社会の条件を整えることが必要である】



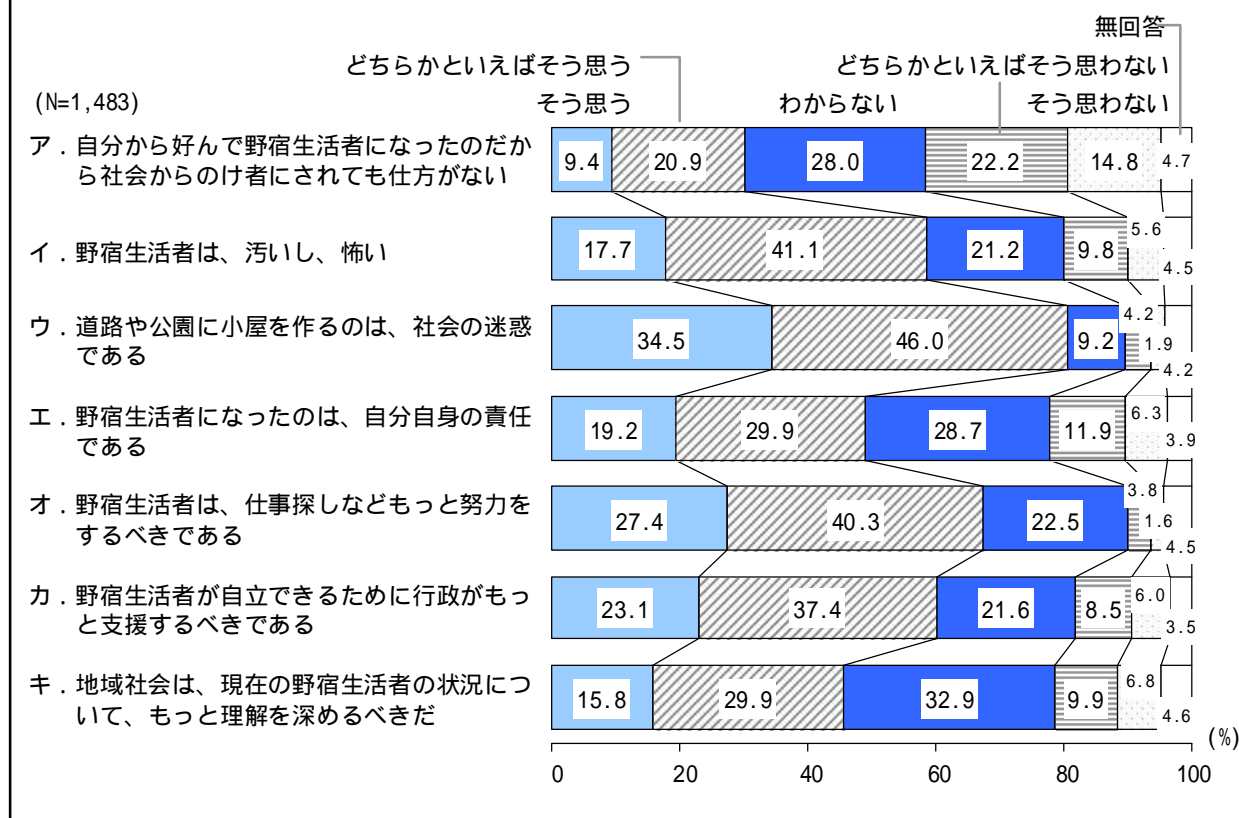
「オ．性的少数者が不利益を受けることのないように、法令等社会の条件を整えることが必要である」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べて割合が高くなっているが、60歳代（41.7%）は他の年代と比べて割合が低くなっている。（図8-5-5）

(6) 野宿生活者の人権問題

問 36 野宿生活者（ホームレス）に対して、つぎのような意見がありますが、あなたはこれらについてどう思いますか。

(ア～キのそれぞれについてあてはまる番号1つに)

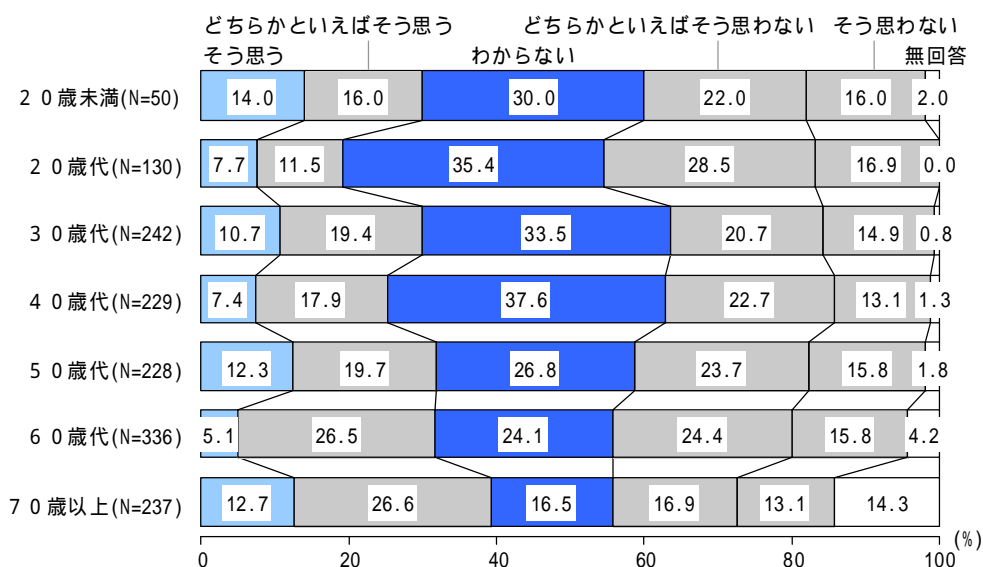
【図 8 6 野宿生活者の人権問題】



野宿生活者の人権問題について、「ア．自分から好んで野宿生活者になったのだから社会からのけ者にされても仕方がない」では、“否定派”（37.0%）が“肯定派”（30.3%）に比べ割合が高くなっているが、“肯定派”も3割台と高い。

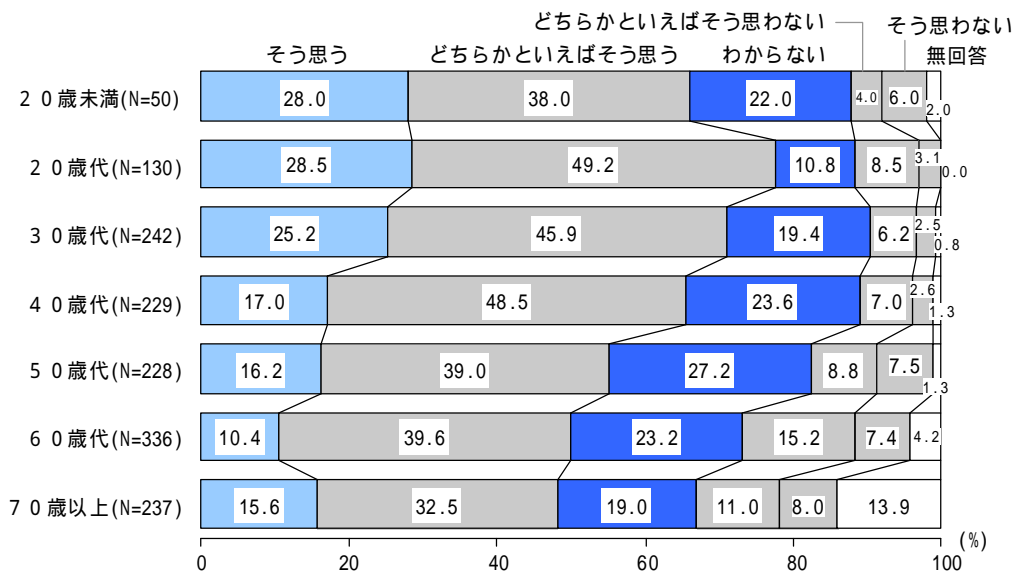
一方、“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高い項目は、「ウ．道路や公園に小屋を作るのは、社会の迷惑である」（80.5%）、「オ．野宿生活者は、仕事探しなどもっと努力をするべきである」（67.7%）、「カ．野宿生活者が自立できるように行政がもっと支援するべきである」（60.5%）、「イ．野宿生活者は、汚いし、怖い」（58.8%）、「エ．野宿生活者になったのは、自分自身の責任である」、（49.1%）、「キ．地域社会は、現在の野宿生活者の状況について、もっと理解を深めるべきだ」（45.7%）となっている。（図 8 6）

【図 8-6-1 年代別 ア・自分から好んで野宿生活者になったのだから社会からのけ者にされても仕方がない】



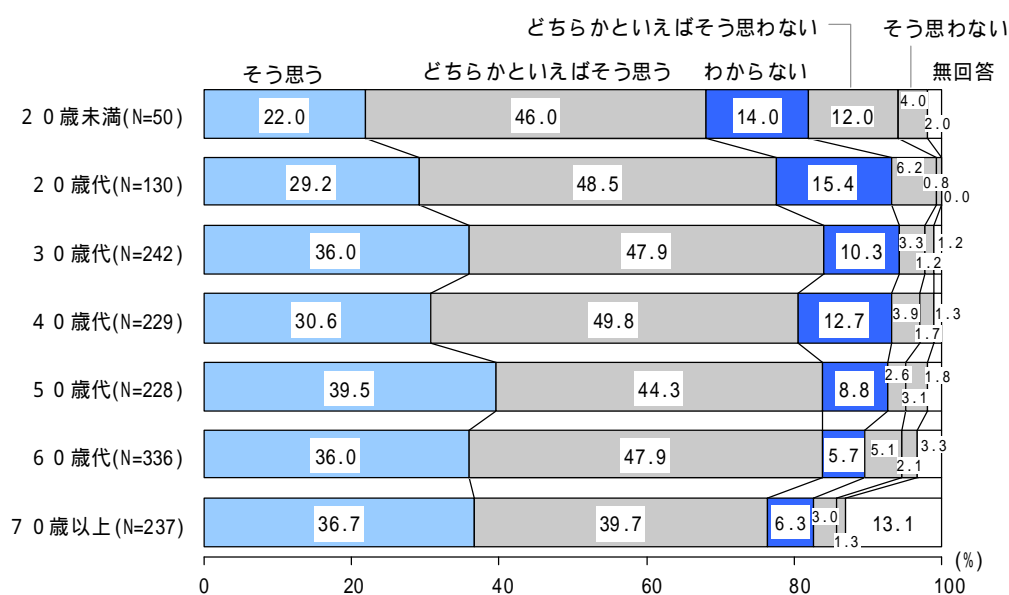
「ア・自分から好んで野宿生活者になったのだから社会からのけ者にされても仕方がない」を年代別でみると、60歳代以下の年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、70歳以上では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。多少の凹凸はあるが、世代が上がるにつれて“肯定派”が多くなっているといえようか。(図 8-6-1)

【図 8-6-2 年代別 イ・野宿生活者は、汚いし、怖い】



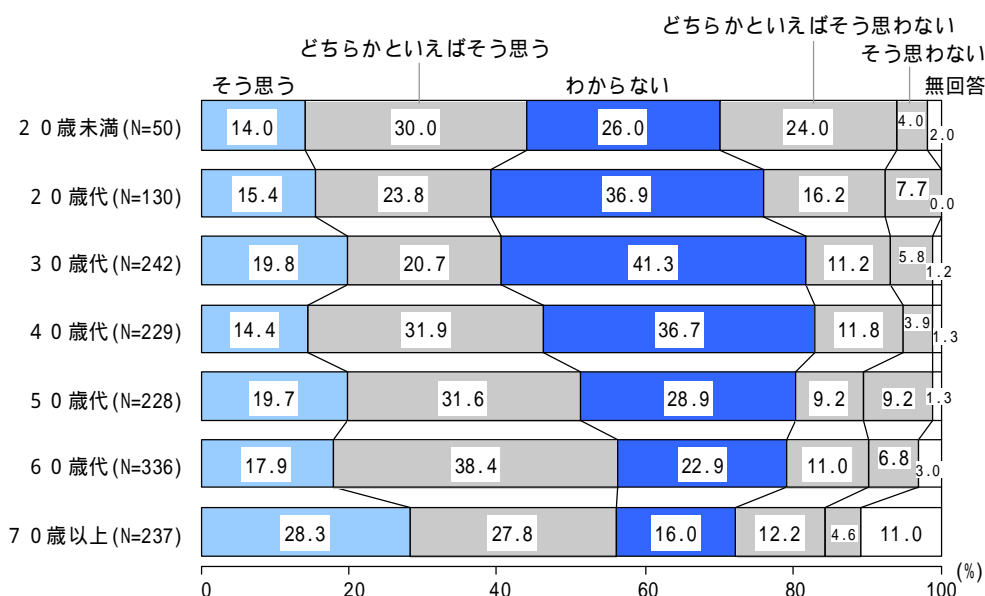
「イ・野宿生活者は、汚いし、怖い」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、特に20歳代(77.7%)と30歳代(71.1%)では7割台と高くなっている。(図 8-6-2)

【図 8-6-3 年代別 ウ．道路や公園に小屋を作るのは、社会の迷惑である】



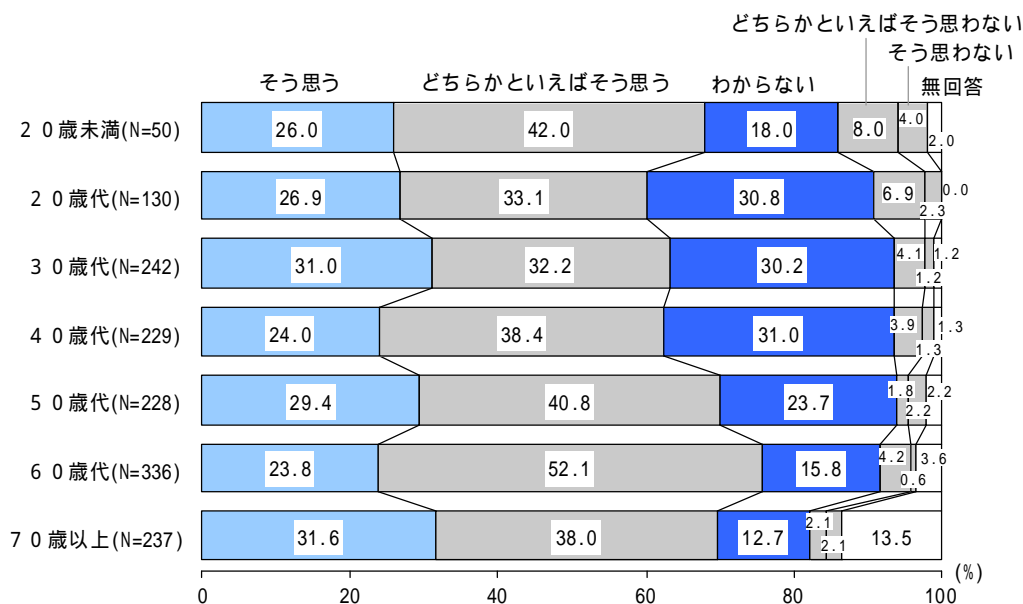
「ウ．道路や公園に小屋を作るのは、社会の迷惑である」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が過半数を占めており、30歳代～60歳代では8割台と高くなっている。一方、“否定派”では、20歳未満（16.0%）が他の年代と比べ割合が高い。（図 8-6-3）

【図 8-6-4 年代別 エ．野宿生活者になったのは、自分自身の責任である】



「エ．野宿生活者になったのは、自分自身の責任である」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、50歳以上の年代では過半数を占めている。また、“否定派”では、20歳代以下の年代で2割台を占めており、他の年代と比べ割合が高くなっている。（図 8-6-4）

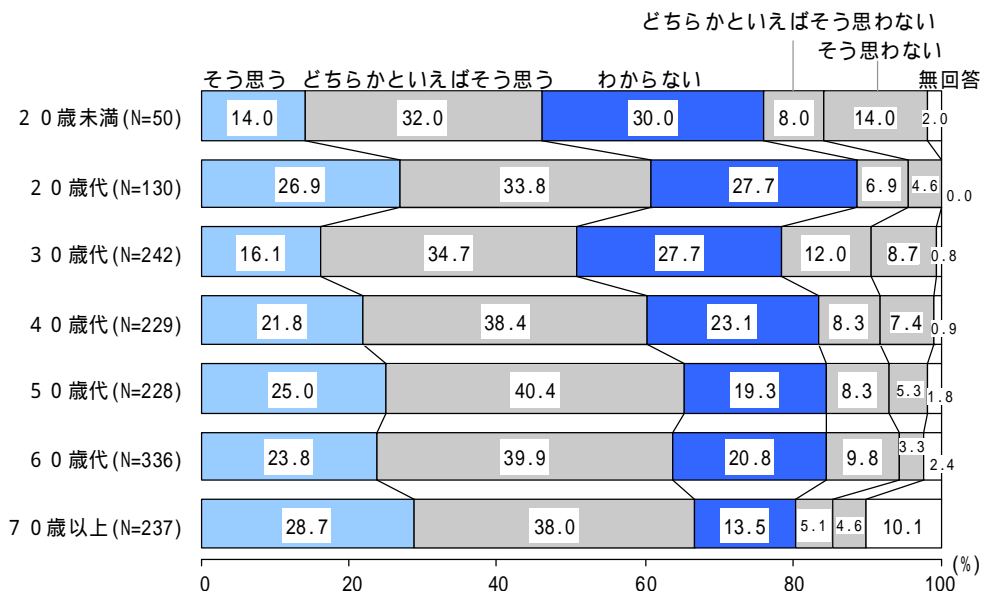
【図 8-6-5 年代別 オ・野宿生活者は、仕事探しなどもっと努力をするべきである】



「オ・野宿生活者は、仕事探しなどもっと努力をするべきである」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が過半数を占めており、特に60歳代が75.9%と高くなっている。

一方、“否定派”では、20歳未満(12.0%)が他の年代と比べ割合が高い。世代が上がるにつれて、野宿生活者への厳しい見方が増大する傾向がうかがえる。(図8-6-5)

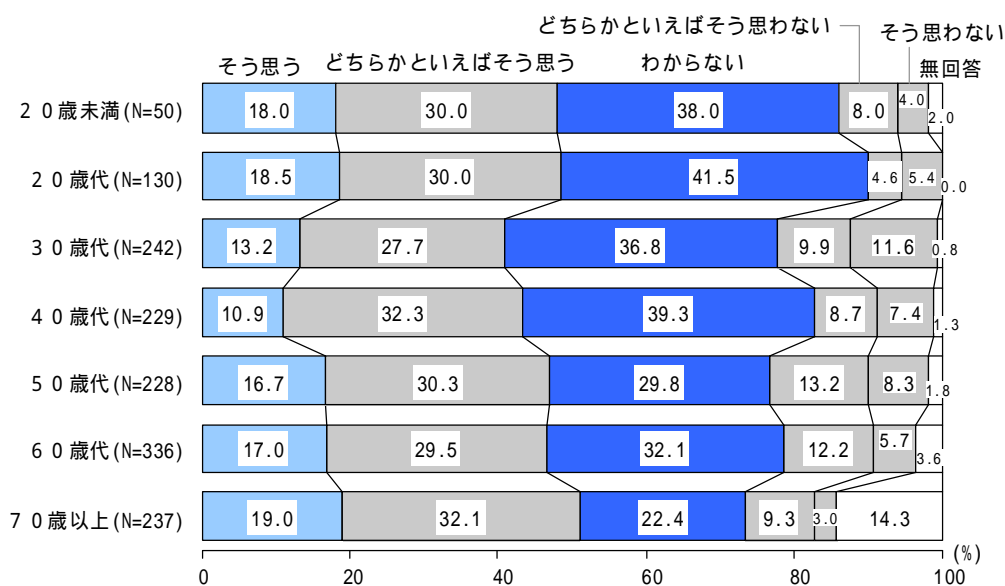
【図 8-6-6 年代別 カ・野宿生活者が自立できるために行政がもっと支援するべきである】



「カ・野宿生活者が自立できるために行政がもっと支援するべきである」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、20歳以上の年代では過半数を占めるが、20歳未満(46.0%)と30歳代(50.8%)が他の年代と比べ割合が低い。

また、“否定派”では、20歳未満(22.0%)と30歳代(20.7%)が2割台を占めており、他の年代と比べ割合が高くなっている。(図8-6-6)

【図 8-6-7 年代別 キ・地域社会は、現在の野宿生活者の状況について、もっと理解を深めるべきだ】



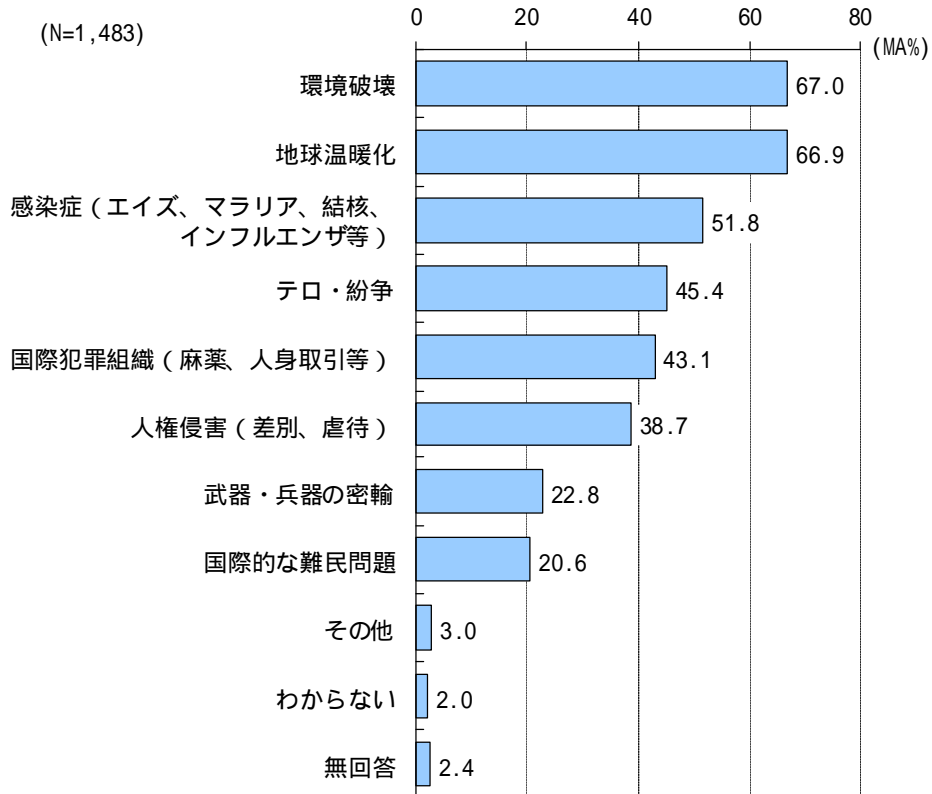
「キ・地域社会は、現在の野宿生活者の状況について、もっと理解を深めるべきだ」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。

また、“否定派”では、30歳代(21.5%)と50歳代(21.5%)が2割台を占めており、他の年代と比べ割合が高くなっている。世代別調査では、 - 1 - (2) で指摘したように、30歳代の保守化傾向がここでもみられる。(図 8-6-7)

(7) 日常生活の中で深刻に感じている地球的規模の問題について

問 37 次の地球的規模の問題のうち、日常生活の中であなたが深刻に感じている問題はなんですか。(あてはまる番号すべてに)

【図 8-7 日常生活の中で深刻に感じている地球的規模の問題について】



日常生活の中で深刻に感じている地球的規模の問題については、「環境破壊」(67.0%)と「地球温暖化」(66.9%)が、ほぼ横ばいで6割以上となっている。次いで「感染症(エイズ、マラリア、結核、インフルエンザ等)」(51.8%)が半数を超えており、「テロ・紛争」(45.4%)、「国際犯罪組織(麻薬、人身取引等)」(43.1%)、「人権侵害(差別、虐待)」(38.7%)と続いている。(図8-7)

【表 8-7-1 年代別 日常生活の中で深刻に感じている地球的規模の問題について】

(上段：回答者数 / 下段：回答比率) (MA%)

	調査数	環境破壊	地球温暖化	感染症（エイズ、マラリア、結核、インフルエンザ等）	テロ・紛争	国際犯罪組織（麻薬、人身取引等）	人権侵害（差別、虐待）	武器・兵器の密輸	国際的な難民問題	その他	わからない	無回答
20歳未満	50 100.0	24 48.0	30 60.0	23 46.0	22 44.0	22 44.0	20 40.0	13 26.0	9 18.0	-	2 4.0	1 2.0
20歳代	130 100.0	80 61.5	74 56.9	79 60.8	68 52.3	50 38.5	57 43.8	29 22.3	34 26.2	6 4.6	3 2.3	-
30歳代	242 100.0	155 64.0	150 62.0	136 56.2	106 43.8	97 40.1	109 45.0	44 18.2	47 19.4	10 4.1	5 2.1	2 0.8
40歳代	229 100.0	152 66.4	156 68.1	117 51.1	108 47.2	77 33.6	77 33.6	36 15.7	29 12.7	11 4.8	4 1.7	2 0.9
50歳代	228 100.0	163 71.5	157 68.9	105 46.1	107 46.9	98 43.0	87 38.2	47 20.6	38 16.7	8 3.5	4 1.8	3 1.3
60歳代	336 100.0	247 73.5	245 72.9	156 46.4	150 44.6	159 47.3	122 36.3	83 24.7	73 21.7	5 1.5	7 2.1	7 2.1
70歳以上	237 100.0	158 66.7	162 68.4	139 58.6	105 44.3	128 54.0	91 38.4	82 34.6	71 30.0	3 1.3	5 2.1	13 5.5

日常生活の中で深刻に感じている地球的規模の問題について年代別でみると、各年代で「環境破壊」と「地球温暖化」の割合が高く、年代が上がるにつれて上昇している。

「感染症（エイズ、マラリア、結核、インフルエンザ等）」では20歳代（60.8%）と70歳以上（58.6%）で6割前後を占めており、「テロ・紛争」では20歳代（52.3%）が、「国際犯罪組織（麻薬、人身取引等）」では70歳以上（54.0%）が5割台を占めている。

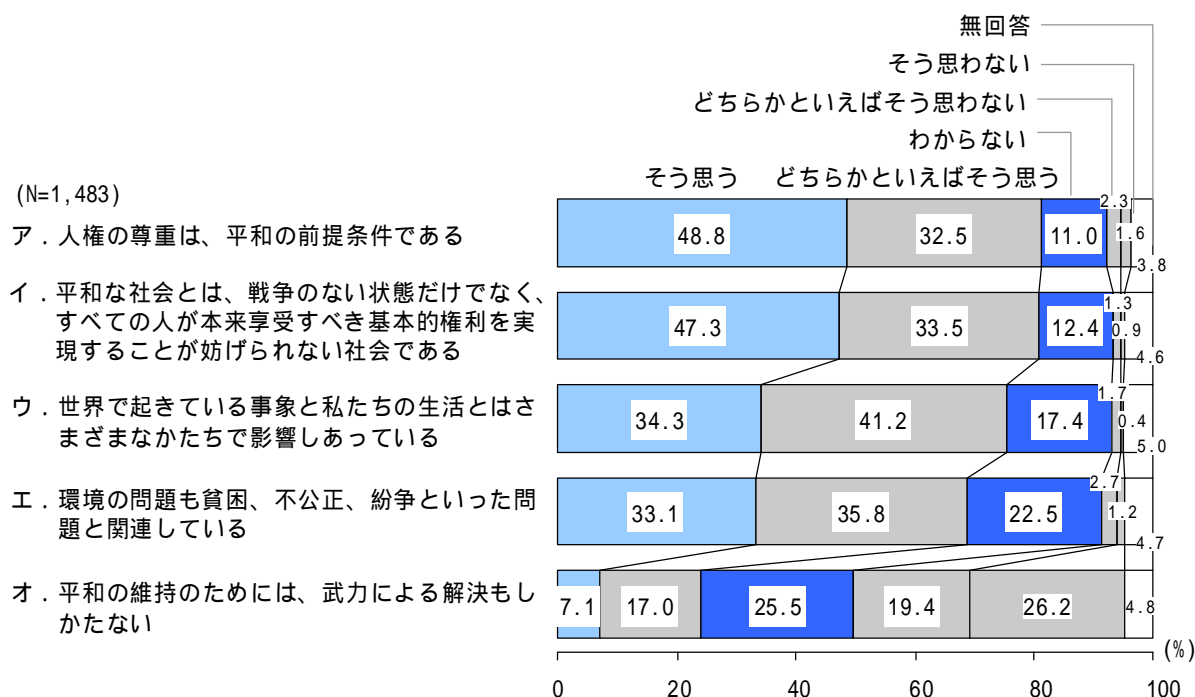
また、「人権侵害（差別、虐待）」では、30歳代以下の年代で4割台を占めて、他の年代と比べ割合が高くなっている。（表 8-7-1）

(8) 平和に関する考え方

問 38 平和に関する次のことについてあなたはどのように思いますか。

(ア～オのそれぞれについてあてはまる番号 1 つに)

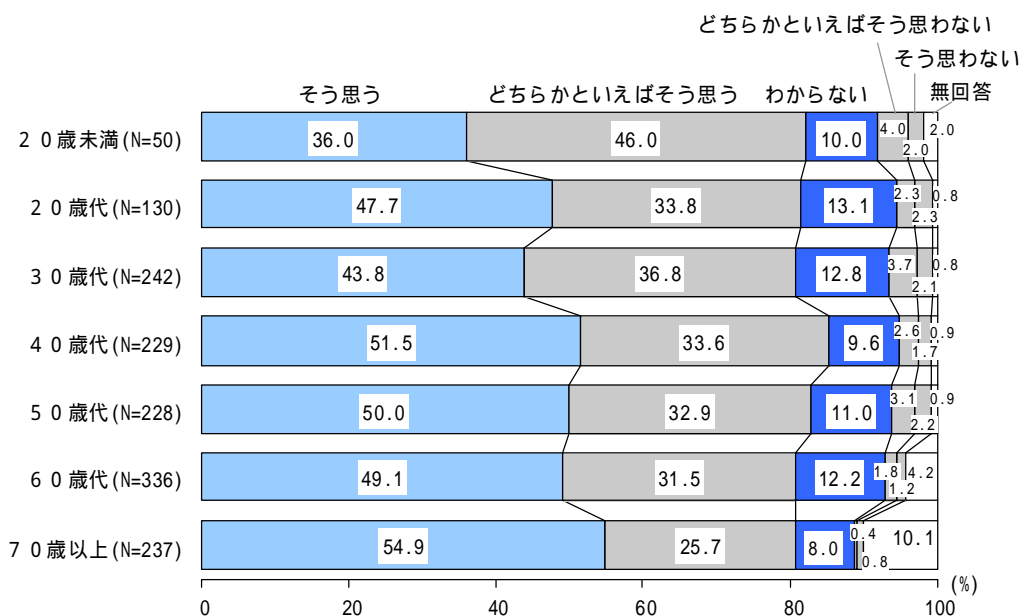
【図 8-8 平和に関する考え方】



平和に関する考え方について、“肯定派”が“否定派”と比べ割合が高い項目は、「ア. 人権の尊重は、平和の前提条件である」(81.3%)、「イ. 平和な社会とは、戦争のない状態だけでなく、すべての人が本来享受すべき基本的権利を実現することが妨げられない社会である」(80.8%)、「ウ. 世界で起きている事象と私たちの生活とはさまざまなかたちで影響しあっている」(75.5%)、「エ. 環境の問題も貧困、不公正、紛争といった問題と関連している」(68.9%)となっており、過半数を占めている。ア.イ.の回答状況から、多くの人々が「平和」と「人権」は不可分であるとの認識を示していることがうかがえる。また、世界や地球といったグローバルな問題と身近な生活が一体の問題として認識されており、意識の上でも「グローバル化」の進展がみられる。

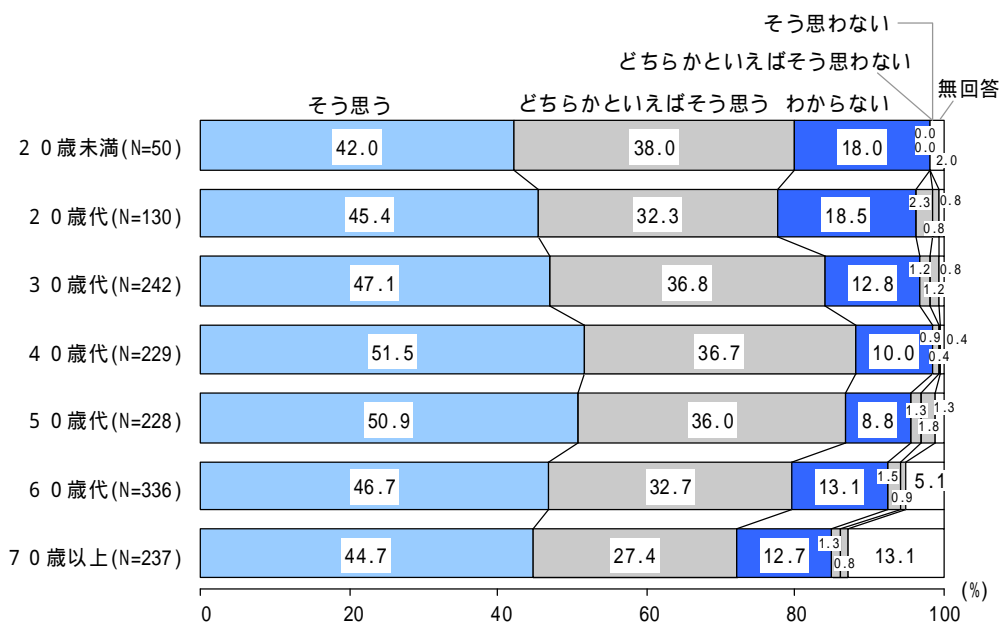
一方、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高い項目は、「オ. 平和の維持のためには、武力による解決もしかたない」(45.6%)となっている。(図 8-8)

【図 8-8-1 年代別 ア. 人権の尊重は、平和の前提条件である】



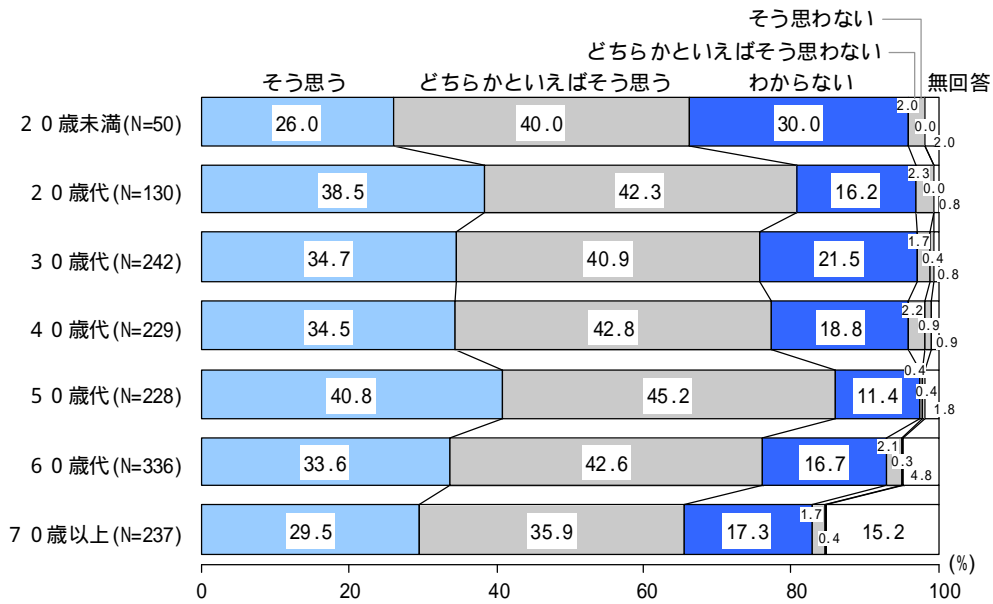
「ア. 人権の尊重は、平和の前提条件である」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が8割以上を占めている。世代間の有意差はみられない。(図 8-8-1)

【図 8-8-2 年代別 イ. 平和な社会とは、戦争のない状態だけでなく、すべての人が本来享受すべき基本的権利を実現することが妨げられない社会である】



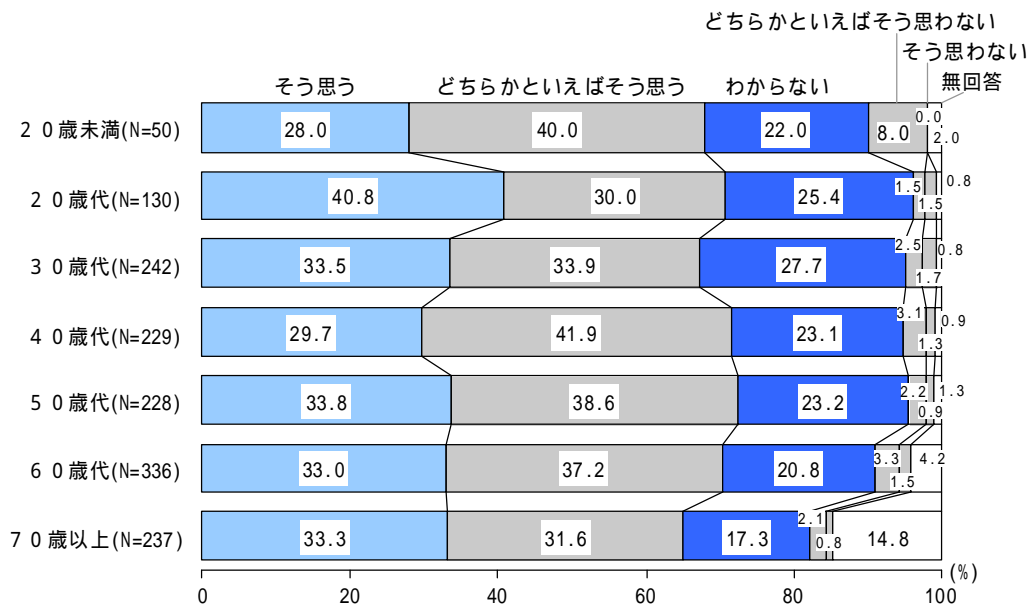
「イ. 平和な社会とは、戦争のない状態だけでなく、すべての人が本来享受すべき基本的権利を実現することが妨げられない社会である」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が7割以上を占めており、特に40歳代では88.2%と高くなっている。(図 8-8-2)

【図 8-8-3 年代別 ウ．世界で起きている事象と私たちの生活とはさまざまなかたちで影響しあっている】



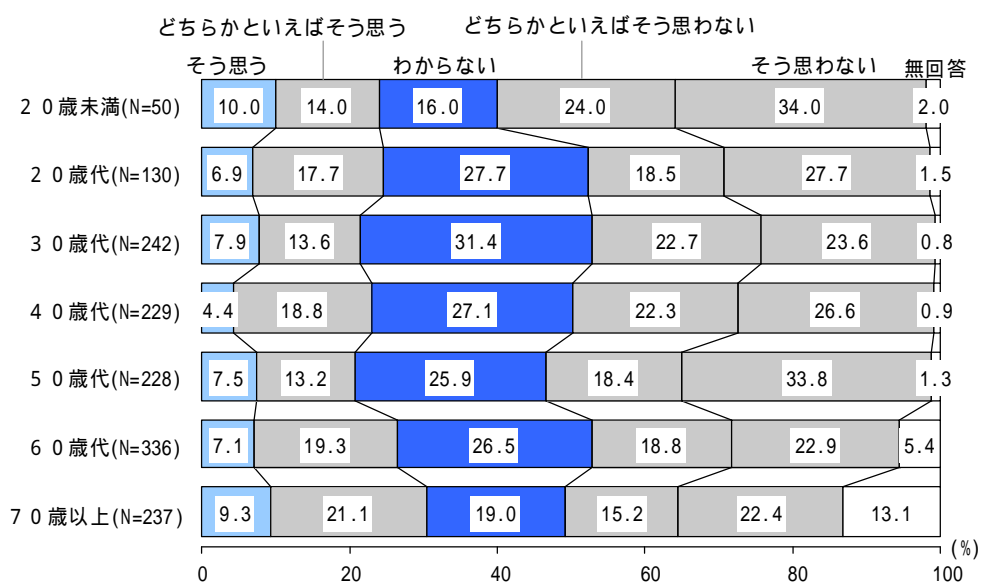
「ウ．世界で起きている事象と私たちの生活とはさまざまなかたちで影響しあっている」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が6割以上を占めており、特に20歳代（80.8%）と50歳代（86.0%）が8割台と高くなっている。（図 8-8-3）

【図 8-8-4 年代別 エ．環境の問題も貧困、不公正、紛争といった問題と関連している】



「エ．環境の問題も貧困、不公正、紛争といった問題と関連している」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が6割以上を占めており、「そう思う」の割合では、20歳代が40.8%と高くなっている。（図 8-8-4）

【図 8-8-5 年代別 オ・平和の維持のためには、武力による解決もしかたない】



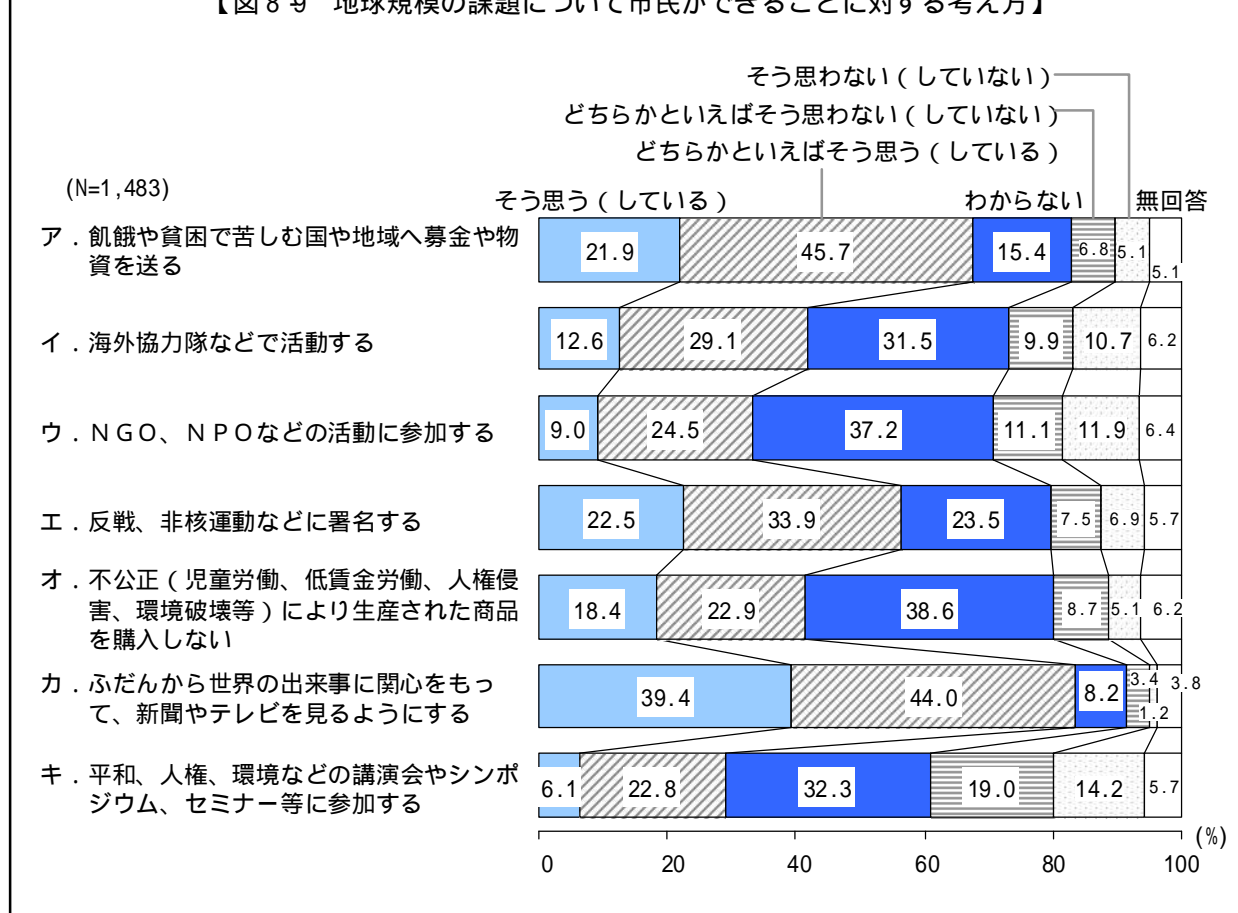
「オ・平和の維持のためには、武力による解決もしかたない」を年代別でみると、各年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、特に20歳未満が58.0%と高くなっている。(図8-8-5)

(9) 地球規模の課題について市民ができることに対する考え方

問 39 問 37 の 1 ~ 8 の地球規模の課題について、わたしたちのできることとして、つぎの
ようなことがあります。あなたはこれらについてどのように考えますか。

(ア ~ キのそれぞれについてあてはまる番号 1 つに)

【図 8 9 地球規模の課題について市民ができることに対する考え方】

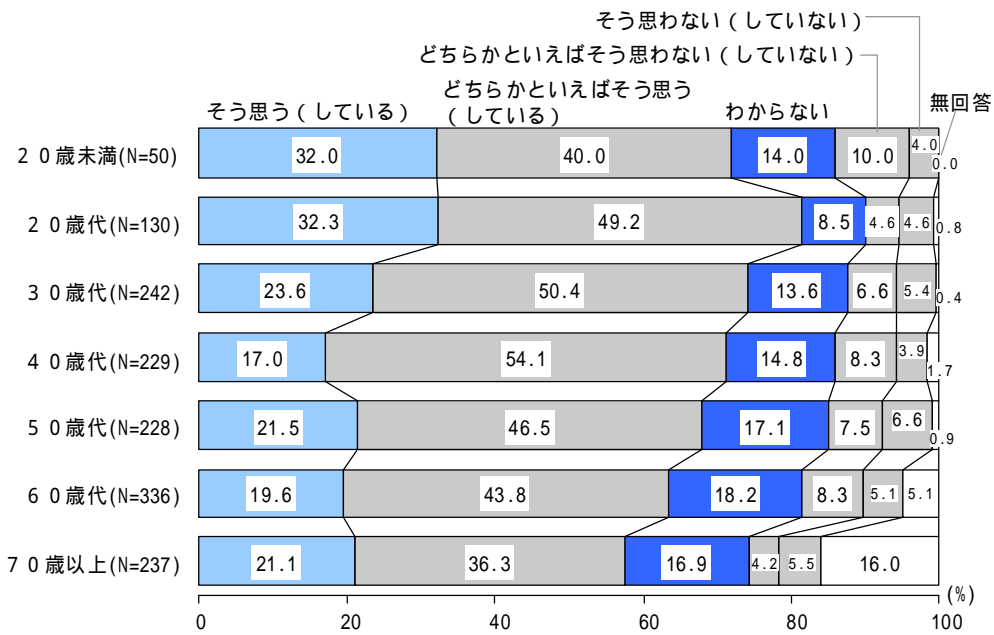


地球規模の課題について市民ができることについて、“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高い項目は、「カ．ふだんから世界の出来事に関心をもって、新聞やテレビを見るようにする」(83.4%)、「ア．飢餓や貧困で苦しむ国や地域へ募金や物資を送る」(67.6%)、「エ．反戦、非核運動などに署名する」(56.4%)、「イ．海外協力隊などで活動する」(41.7%)、「オ．不公正(児童労働、低賃金労働、人権侵害、環境破壊等)により生産された商品を購入しない」(41.3%)となっている。

一方、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高い項目は、「キ．平和、人権、環境などの講演会やシンポジウム、セミナー等に参加する」(33.2%)となっている。

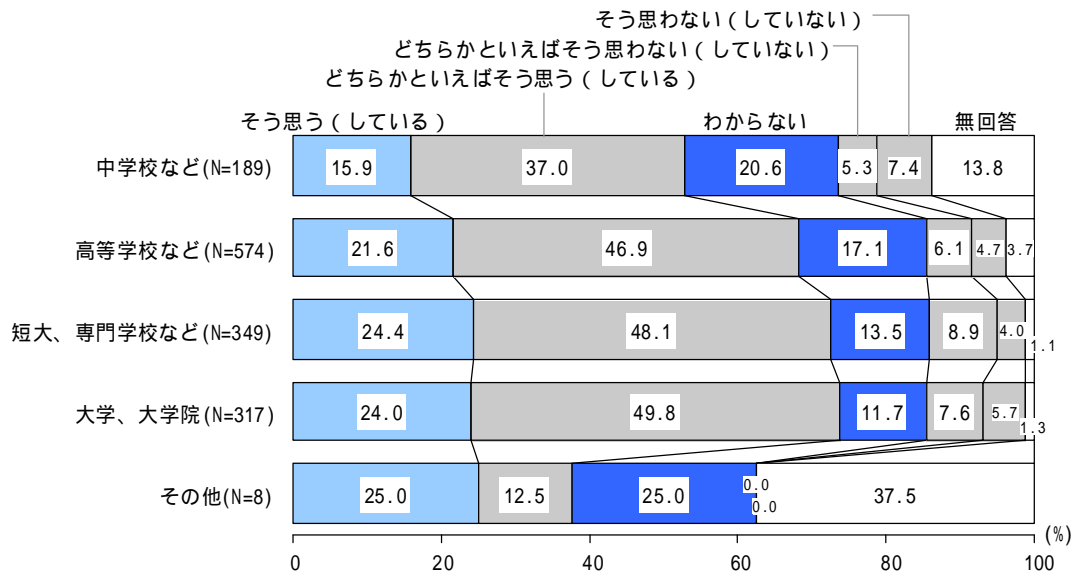
また、「ウ．NGO、NPOなどの活動に参加する」では、「わからない」(37.2%)が最も高く、“肯定派”(33.5%)が“否定派”(23.0%)に比べ割合が高くなっている。地球規模の課題について、その解決のために多くの人たちは関心を示しているが、それは日常生活の中でできること(「募金や物資を送ること」「署名すること」)にとどまり、積極的に海外協力隊やNPO、NGOへの参加は少なくなっている。(図89)

【図 8-9-1 年代別 ア．飢餓や貧困で苦しむ国や地域へ募金や物資を送る】



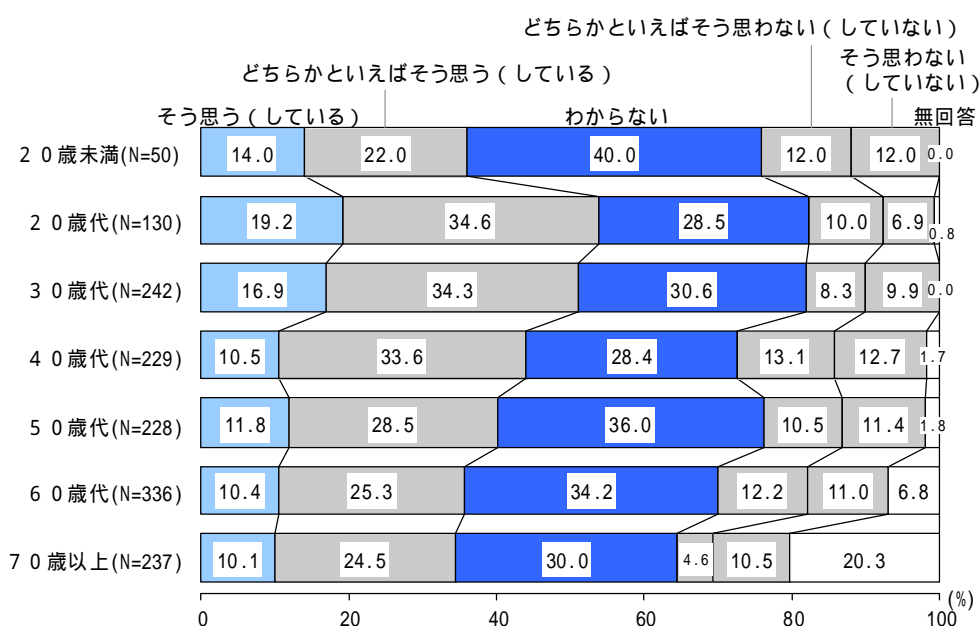
「ア．飢餓や貧困で苦しむ国や地域へ募金や物資を送る」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が過半数を占めており、特に20歳代では81.5%と高くなっているが、年代が上がるにつれて割合が低下している。（図 8-9-1）

【図 8-9-2 最終学歴別 ア．飢餓や貧困で苦しむ国や地域へ募金や物資を送る】



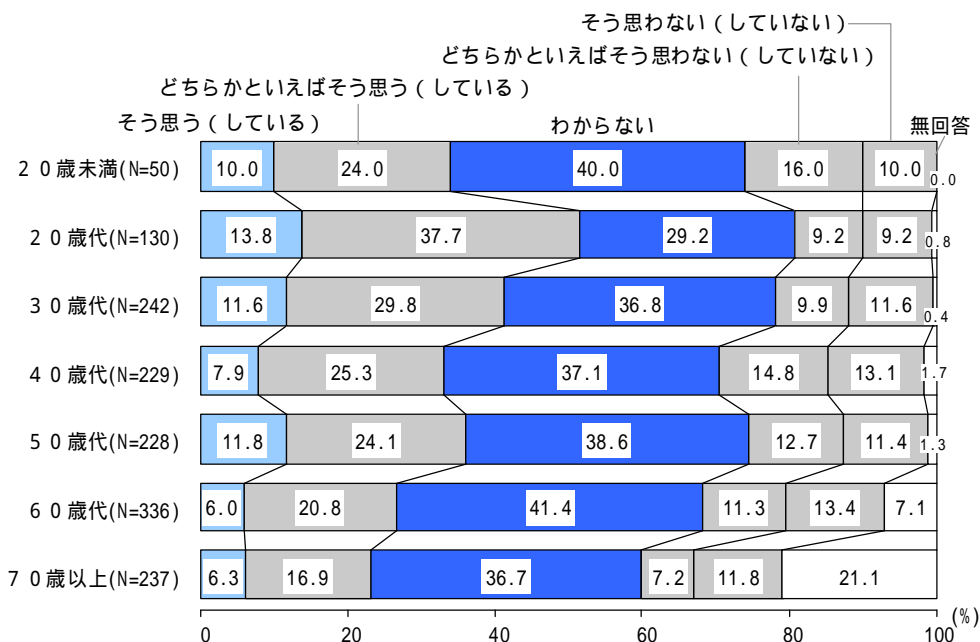
「ア．飢餓や貧困で苦しむ国や地域へ募金や物資を送る」を最終学歴別でみると、各学歴で“肯定派”が過半数を占めており、高学歴になるにつれて割合が上昇しているが、中学校など（52.1%）は他の学歴に比べ割合が低くなっている。学歴が上がるにつれて“肯定派”が増えるという学歴との相関的差異が表れている項目と言えよう。（図 8-9-2）

【図 8-9-3 年代別 イ. 海外協力隊などで活動する】



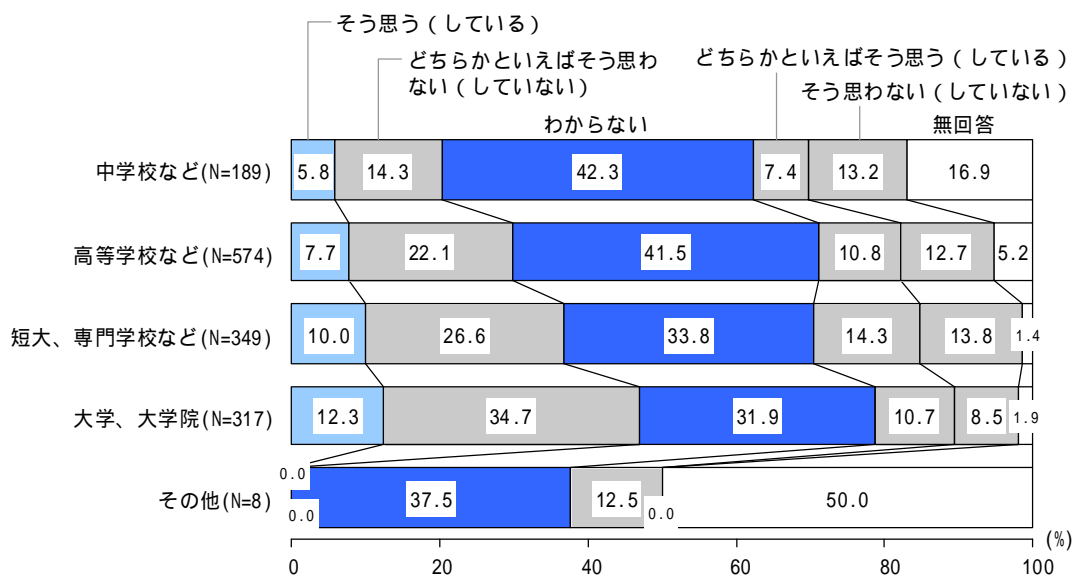
「イ. 海外協力隊などで活動する」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、20歳代(53.8%)と30歳代(51.2%)では過半数を占めているが、年代が上がるにつれて割合が低下している。(図 8-9-3)

【図 8-9-4 年代別 ウ. NGO、NPOなどの活動に参加する】



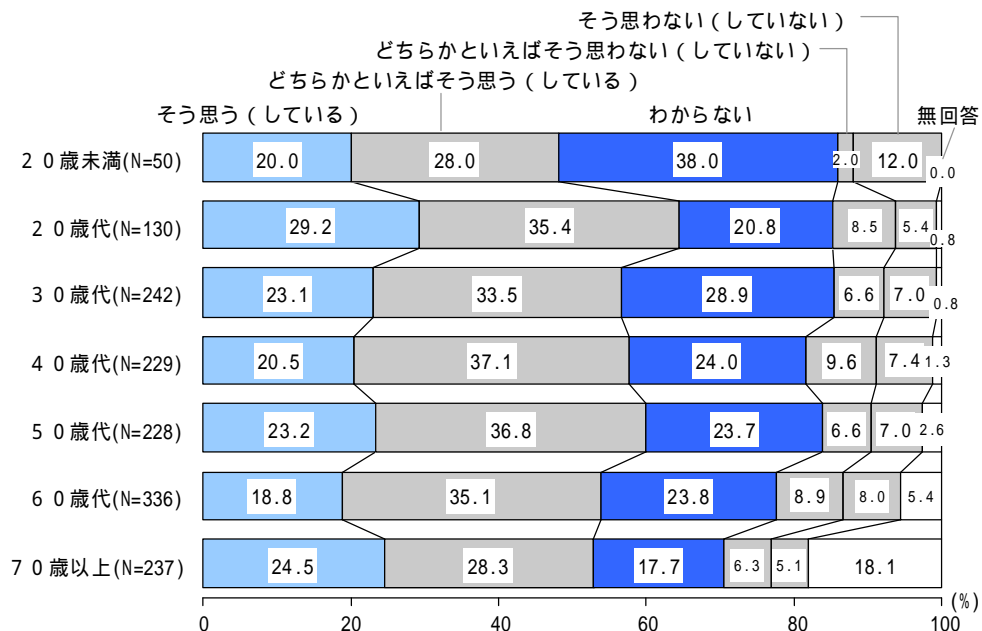
「ウ. NGO、NPOなどの活動に参加する」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、20歳代(51.5%)では過半数を占めているが、年代が上がるにつれて割合が低下している。(図 8-9-4)

【図8-9-5 最終学歴別 ウ・NGO、NPOなどの活動に参加する】



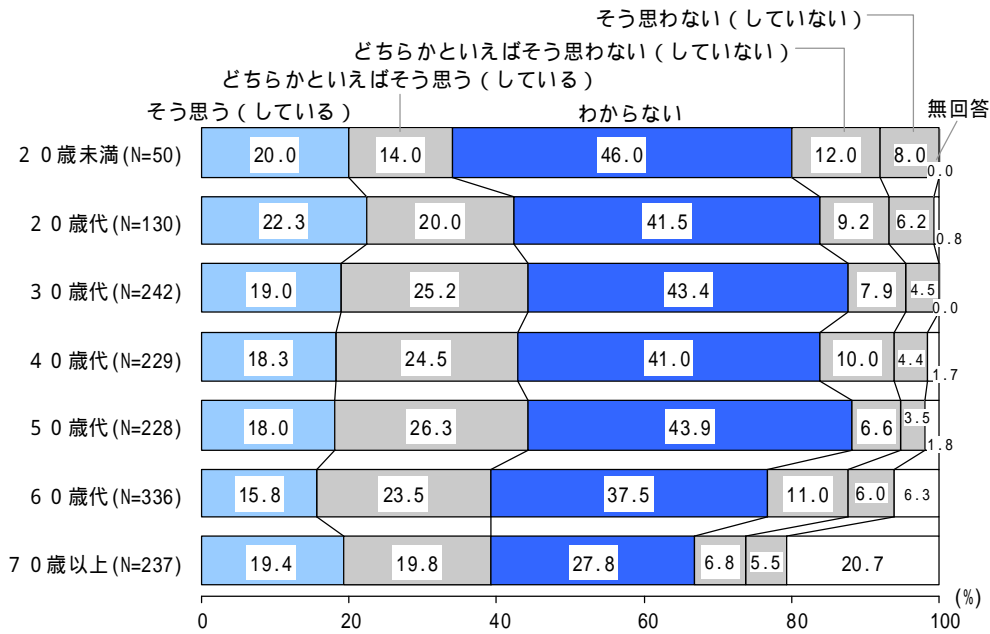
「ウ・NGO、NPOなどの活動に参加する」を最終学歴別でみると、中学校などでは“否定派”（20.6%）が“肯定派”（20.1%）に比べわずかに割合が高くなっているが、高等学校以上の学歴では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなり、高学歴になるにつれて“肯定派”の割合が上昇している。（図8-9-5）

【図8-9-6 年代別 エ・反戦、非核運動などに署名する】



「エ・反戦、非核運動などに署名する」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が5割前後を占めており、特に20歳代（64.6%）と50歳代（60.0%）では6割台と高くなっているが、20歳未満（48.0%）が他の年代と比べ割合が低くなっている。（図8-9-6）

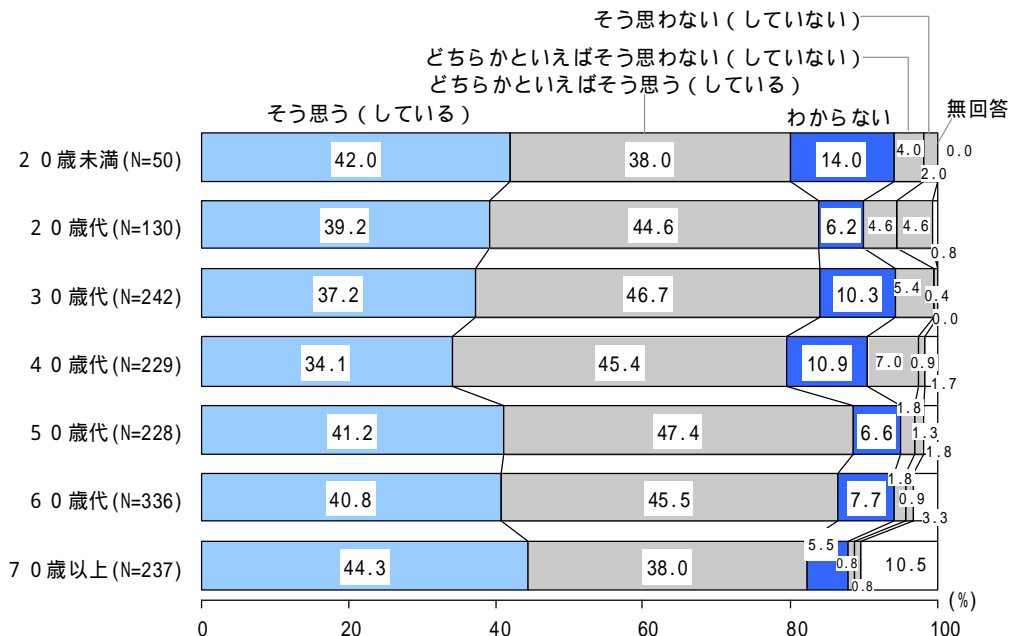
【図8-9-7 年代別 オ・不公正（児童労働、低賃金労働、人権侵害、環境破壊等）により生産された商品を購入しない】



「オ・不公正（児童労働、低賃金労働、人権侵害、環境破壊等）により生産された商品を購入しない」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっているが、「わからない」の割合も高くなっている。

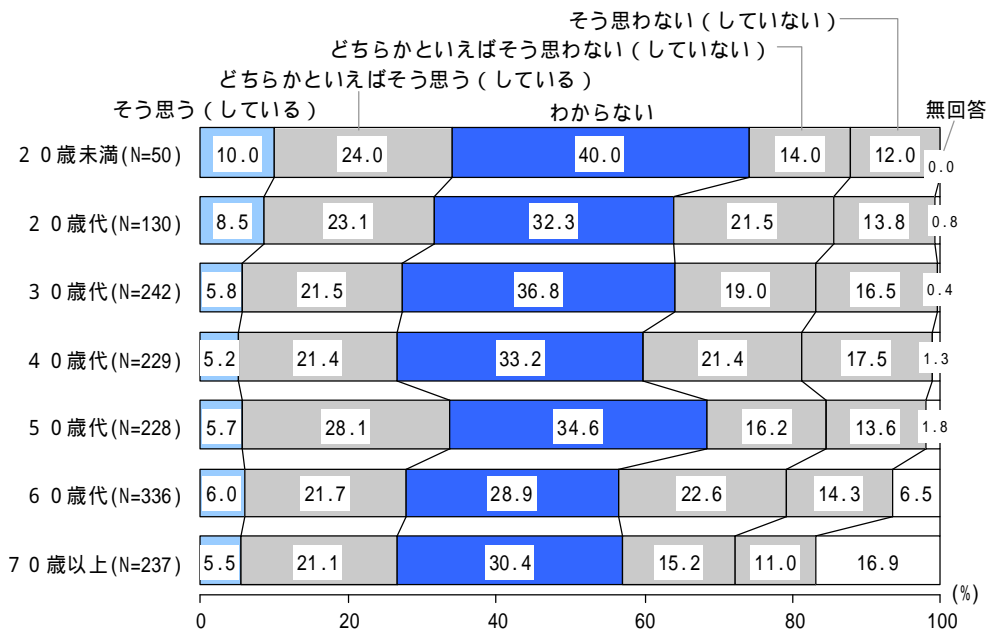
また、“否定派”では、20歳未満（20.0%）が他の年代と比べて割合が高い。（図8-9-7）

【図8-9-8 年代別 カ・ふだんから世界の出来事に関心をもって、新聞やテレビを見るようにする】



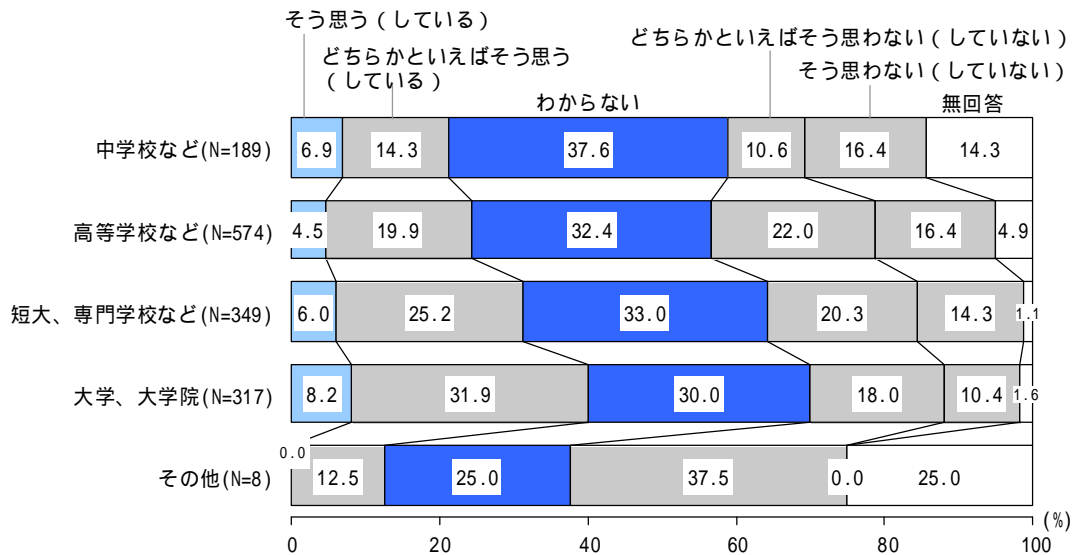
「カ・ふだんから世界の出来事に関心をもって、新聞やテレビを見るようにする」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が8割前後を占めている。（図8-9-8）

【図 8-9-9 年代別 キ . 平和、人権、環境などの講演会やシンポジウム、セミナー等に参加する】



「キ . 平和、人権、環境などの講演会やシンポジウム、セミナー等に参加する」を年代別で見ると、各年代で「わからない」の割合が高くなっており、20歳未満、50歳代、70歳以上では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高く、20歳代～40歳代、60歳代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっている。(図 8-9-9)

【図 8-9-10 最終学歴別 キ . 平和、人権、環境などの講演会やシンポジウム、セミナー等に参加する】



「キ . 平和、人権、環境などの講演会やシンポジウム、セミナー等に参加する」を最終学歴別で見ると、短大、専門学校など以下の学歴では、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、高学歴になるにつれて“肯定派”の割合が上昇しており、大学、大学院では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。(図 8-9-10)